# 学習塾，けいこごとへの子どもの意識

## ——なぜ通うのか，なぜ通わないのか，止めたのか——

杉　江　修　治
伊　藤　　篤

## 問　　題

学習塾，けいこごとへの通塾実態については，全国規模で文部省が実施した最近の調査結果がある（文部省大臣官房調査統計課 1986）。これによれば，1985 年には小学生の 76.0% が，また中学生の 62.5% が何らかの塾に通っている。9 年前の同様の調査（文部省大臣官房調査統計課 1978）では，前者が 67.5%，後者が 56.2% であり，小，中学校ともに年々の上昇傾向がみられる。学習塾だけについては，小学生が 12.1% から 16.4% へ，中学生は 38.0% から 44.5% へと上昇している。けいこごとでは，小学生は 62.8% から 70.6%，中学生は 25.1% から 27.4% と，けいこごとの種類別に細かくみればばらつきはあるものの全体的には上昇傾向がみられる。NNS 調査委員会の調査（1985）でも，1974 年から 1984 年にかけてほぼこれと同様の通塾率の上昇傾向を報告している。

このような近年の高い通塾率は，子どもの教育を考えるうえで無視することができない条件となっている。

子どもの教育の場は学校だけではない。学校の教育機能は各教科内容の修得に中心がある。それは子どもの社会化には欠かすことのできない内容を含んでいるが，すべての子どもに対して十分というわけではない。学校の占める比重は大きいとはいえ，社会に巣立つ準備のための行動変容を促す場はさらに広く，子どもをとりまく家庭や地域，社会の教育力にも目を

向ける必要があろう。

学習塾，けいこごと塾は，地域の教育力の一端をになう機関として位置づけられよう。とりわけけいこごと塾は，その多くが学校では十分に扱わない内容を子どもが学習する機会を提供している。ただ，学習塾やけいこごと塾は，学校外の教育力として，実際に適切に機能しているのだろうか。学習塾は知識の量的修得に力点が偏っているという捉え方は一般的である。けいこごと塾も，その多くは旧来の訓練方法を踏習しているにすぎず，広い教育力をもった場として捉えられることは少ない。子どもは学習塾，けいこごと塾で少なからぬ時間を費している。彼らはそこで，塾の直接的な教育内容のみならず，それ以外の多くのことがらを同時に学習している。それゆえ，塾指導者の広く確かな教育観の形成が強く要求されてきているといえるであろう。

塾の教育的意義は多面的に検討されてきている。たとえば深谷昌志・深谷和子（1976）では，塾通いの時間帯の調査によって子どもの遊び仲間づくりが極めて困難な状況にあることを示し，「塾は，また別の視点からの功罪は別として，子どもの遊び行動の成立にとっては，罪万死に価するといわなければならない」とのべている。また，深谷昌志（1985）は近年の企業化された学習塾の増加と，そこでの成績偏重傾向を前提に，「子どもたちの中に，成績の良し悪しに極端なまでにこだわりを持つ態度が育ってくる」といった問題点の指摘を行っている。

一方，斎藤次郎（1983）は，学習塾指導者の経験に基づき，「塾は子どもたちにとって遊び場，社交場といった側面があるのです」と，塾のもつ積極的な意義を指摘している。また，NNS調査委員会（1985）では，「塾やおけいこごとは楽しいですか」という質問を行い，その結果最も多い回答は「たのしい時とたのしくない時がある（50%）」であったが，2番目は「たのしい（33%）」であり，「たのしくない（1%）」に比べてたのしいとする者の割合が大きいことが示されている。すなわち子どもたちの主観では，むしろ塾はポジティヴに評価されるという結果もみられるのである。

塾の功罪は，親の教育費負担や修得内容の教育的意義等，多様な側面で

検討する必要がある。千石保・飯長喜一郎（1985）の指摘するように「稽古ごとや塾が，子どもの生活を豊かにする一助になっているか，子どもから生き生きした生活をうばっているか，慎重に考える必要がある」のである。ただし，そのための実証的資料は未だ不十分な状況にある。現在，これを適切に集め積みあげていく作業が必要とされている。

本研究では，塾の教育的機能を明らかにする手がかりとして，愛知県内の大都市と周辺中都市の小学校6年生を対象に，彼らが多く通っている5つの塾種，すなわち学習塾，珠算塾，書道塾，スポーツ教室，音楽教室それぞれについて質問紙調査を行った。調査内容は次のとおりである。

(1)通塾実態（通塾経験の有無，通塾日数等）――これは，被調査者の居住する地域の通塾実態調査としての意味をもつのと同時に，他の類似の調査とその結果を比較検討するための基礎資料となる。

(2)通塾者の当該塾に対する態度――塾の指導者，友人，指導内容という3つの対象に対する態度を，感情面，評価面，行動面で質問した。またそれ以外にも通塾者の当該塾に対する意識についての複数の項目を加えた。

(3)非通塾者の当該塾に通わない理由――塾に内在する理由，外在的理由等の項目を設けた。また非通塾者における塾の潜在的な誘引性を見るために，親からの通塾への圧力，本人の通塾への意向等についても質問をした。

(4)当該塾の退塾経験者の退塾理由――退塾は，塾内での適応を検討する重要な視点である。また塾経営上必要な情報でもある。しかしながらこれまで退塾についての調査は極めて少ない。本調査では理由に加えて退塾時期，やめた塾への魅力などもあわせて質問した。また，退塾経験者と現在通塾している者とを合わせると「通塾経験」のある者の割合が明らかになるが，このような縦断的な形での通塾経験の実態資料は極めて少ないはずである。

さて，本調査は先に引用した文部省の調査と比べて，その内容やねらいに幾つかの特徴がある。まず，調査地域が愛知県内と限定されており，それに伴って被調査者の数も比較的少ないことがあげられる。その最大の理由は費用面にあるが，この地域の限定という手続きは消極的な意味しかも

たないわけではない。むしろ特定の地域に限定した調査によって，全国レベルの集計では相殺されてしまうような結果をひき出すことが可能になることは十分予想できる。事例的な検討を通して，結果間の有意味な関連を見出すことができると考えられるのである。

次に，ここでは大都市である名古屋市（人口207万人）の児童と周辺中都市（春日井市25万人，豊田市18万人，豊川市10.5万人の3都市）の児童というように，2水準の人口規模の都市から被調査者を選び，集計を別々に行った。文部省調査（1986）も被調査者の居住する地域の人口規模別の資料を出し，幾点かの特徴を見出している。ただしそこでは，人口規模10万人以上はひとまとめに集計されており，大都市での通塾に関するデータは示されていない。

また，調査対象は小学校6年生に限った。6年生は中学生に近く，学習塾への通塾率が高まりはじめると予想される学年である。一方，けいこごとへの通塾率は4，5年生時に比べて下降気味ながら低くはないと予想される。いうなれば，通塾する塾種が交替しはじめる時期であり，その変化にかかわる資料が得られると判断したことによる。

調査対象とした5つの主要な塾種間の詳細な比較はこれまでほとんど行われてきていない。これは塾といえば学習塾への関心が強いことによるだろう。したがって学習塾への意識調査はその数が多いのである。しかし，とりわけ小学生の段階では，通塾率の高いけいこごとにも着目する必要は大きいであろう。それらを学習塾ともども塾として同列に扱い，子どもの実態を横ならびに検討することは，学校外の教育力をもつものとしての地域の塾の教育的機能を多面的に吟味するために有益だと考えられるのである。

## 方　　法

**被調査者**　名古屋市内（大都市）の3つの小学校の6年生370名，周辺中都市（豊田市，春日井市，豊川市）の3つの小学校の6年生332名を対

象とした。名古屋市内の3校は，いずれも市内の中心部に近く，古くからの市街地に位置する学校である。周辺中都市の3校は，いずれも市の辺縁部に位置し，2校は田園地帯に，1校は新興住宅地にある学校である。6校ともに中規模校である。

**調査手続き**　調査用紙は，学習塾，珠算塾，書道塾，スポーツ教室，音楽教室の5つの塾種それぞれに1枚ずつを用意した。調査実施のための手引きを添え，1回に1～2枚のペースで行うという形で，各小学校の教員に実施を依頼した。

**調査内容**　調査内容の大枠は「問題」の項でのべたとおりである。具体的な項目は，資料として論文末に付した。

**調査期間**　1985年11月～1986年1月。

## 結果と考察

### 1. 通塾実態

小学生の通塾率という点で，全国の中で愛知県はどう位置づくのかについては文部省調査(1986)の県別集計によって見当づけすることができる。学習塾へは愛知県の小学生の31.6%が通塾しており，これは全国で9番目の高さである。ちなみに大都市をひかえた県，東京都は38.6%で1位，大阪府は36.4%で4位である。けいこごとは愛知県の小学生の62.3%が通っており，奈良県について全国2位の通塾率である。東京都は59.2%(11位)，大阪府は59.7%(8位)である。学習塾，けいこごとともに，愛知県は全国的にみて通塾率が高い。とりわけけいこごとは盛んな地域であるという，この県の特徴をまずおさえておきたい。

さて，この調査での通塾経験に関する結果は表1に示した。これにより，以下のような諸点が明らかにされた。

a. 小学校6年生では，最も通塾率が高いのは学習塾である(大都市51.0%，中都市38.2%)。ついで珠算塾(大都市26.2%，中都市26.5%)，書道塾(大都市23.0%，中都市23.2%)，音楽教室(大都市19.5%，中都市

表1　通塾経験　（%）

| 都市別 | | | 大都市 | | | | | 中都市 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 塾種別 | | | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 |
| 通塾経験のある者 | 現在通っている者 | 塾をかわった経験なし | 35.1<br>130 | 23.5<br>87 | 18.9<br>70 | 7.6<br>28 | 13.0<br>48 | 33.7<br>112 | 24.7<br>82 | 21.4<br>71 | 12.0<br>40 | 16.9<br>56 |
| | | 塾をかわった経験あり | 15.9<br>59 | 2.7<br>10 | 4.1<br>15 | 5.1<br>19 | 6.5<br>24 | 4.5<br>15 | 1.8<br>6 | 1.8<br>6 | 1.8<br>6 | 3.3<br>11 |
| | | 合計 | 51.0<br>189 | 26.2<br>97 | 23.0<br>85 | 12.7<br>47 | 19.5<br>72 | 38.2<br>127 | 26.5<br>88 | 23.2<br>77 | 13.8<br>46 | 20.2<br>67 |
| | 現在通っていない者 | | 9.2<br>34 | 48.9<br>181 | 57.0<br>211 | 45.0<br>166 | 21.6<br>80 | 9.9<br>33 | 42.5<br>141 | 40.4<br>134 | 19.6<br>65 | 14.8<br>49 |
| | 通塾経験者合計 | | 60.3<br>223 | 75.1<br>278 | 80.0<br>296 | 57.7<br>213 | 41.1<br>152 | 48.2<br>160 | 69.0<br>229 | 63.6<br>211 | 33.4<br>111 | 34.9<br>116 |
| 通塾経験のない者 | | | 39.7<br>147 | 24.9<br>92 | 20.0<br>74 | 42.3<br>156 | 58.9<br>218 | 51.8<br>172 | 31.0<br>103 | 36.4<br>121 | 66.6<br>221 | 65.1<br>216 |

下段；人数

20.2%），スポーツ教室（大都市12.7%，中都市13.8%）の順になっている。通塾率の高さの順序は大都市と中都市で同じである。

b．大都市と中都市の子どもの通塾率は，学習塾を除いては非常によく似ている。学習塾のみ，大都市が中都市に比べて13%ほど高い通塾率を示した。

c．当該塾にかつて通った経験があり，現在は通っていない者と，現在も通っている者を合計した「通塾経験者」の割合は，大都市，中都市ともに，珠算塾，書道塾が他を圧して高い。大都市では小学校6年生の¾が珠算塾に通った経験をもち，⅘が書道塾に通った経験をもっている。中都市でも珠算塾は69%，書道塾は63.6%の小学校6年生が通塾経験をもっているのである。その他半数以上の通塾経験を示す塾種は，大都市の学習塾（60.3%），スポーツ教室（57.7%）がある。

d．通塾経験者の中で塾に現在通っている者と通っていない者とを比較すると，大都市の学習塾，中都市の学習塾と音楽教室を除いて，残りはすべて通っていない者の数が多い。小学校6年生では通う塾種がけいこごとから学習塾へと大きく変化してきていることをうかがわせる結果である。

e．通塾経験者の割合は，中都市に比べて大都市がすべての塾種で一貫して大きい。このように過去までさかのぼってみた場合，横断的に6年生だけをとりあげたデータと異なり，けいこごとでも大都市で盛んだという傾向があることが示されたのである。

f．現在塾に通っている者で，塾をかわったことがある者は，大都市が中都市に比べて一貫して多い。ことに学習塾でその傾向は大きい。

さて，通塾実態の別の側面として，塾にどれ程の頻度，どれ程の時間通っているのかについて調査した結果を次に示す。まず表2では，週あたりの通塾日数を示す。

**表2**　通塾日数（週当り）　(%)

| | 大都市 | | | | | 中都市 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 |
| 1日 | 8.5 | 0.0 | 63.5 | 38.3 | 91.7 | 15.7 | 0.0 | 68.8 | 58.7 | 97.0 |
| 2日 | 25.5 | 1.0 | 34.1 | 31.9 | 8.3 | 44.9 | 0.0 | 28.6 | 26.1 | 1.5 |
| 3日 | 31.4 | 8.2 | 1.2 | 12.8 | 0.0 | 31.5 | 40.9 | 1.3 | 6.5 | 0.0 |
| 4日 | 19.1 | 62.9 | 0.0 | 10.6 | 0.0 | 6.3 | 45.5 | 0.0 | 0.0 | 1.5 |
| 5日 | 5.9 | 19.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 12.5 | 0.0 | 4.3 | 0.0 |
| 6日 | 8.5 | 1.0 | 1.2 | 6.4 | 0.0 | 0.9 | 1.1 | 0.0 | 4.3 | 0.0 |
| 7日 | 1.1 | 7.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 |

g．通塾日数の分布は表2のとおりである。大都市の学習塾は3日が最頻値となっている。大都市の珠算塾は4日，書道塾は1日，スポーツ教室，音楽教室もそれぞれ1日が最頻値である。中都市は学習塾の最頻値が2日であるほかは残りの塾種の通塾日数の最頻値は大都市と同じであった。ただ，学習塾の通塾日数は大都市，中都市ともに塾によるばらつきが大きい傾向がみられた。それに対し，音楽教室は週1日の教室がほとんどであることが示された。

h．表2にもとづき週あたりの平均通塾日数を各塾種別に求めると，大都市の学習塾3.2日，珠算塾4.3日，書道塾1.4日，スポーツ教室2.2日，

音楽教室1.1日，中都市の学習塾2.4日，珠算塾3.7日，書道塾1.4日，スポーツ教室1.8日，音楽教室1.1日である。書道塾と音楽教室を除くと，その他の塾種では大都市の方が中都市よりも少しずつ通塾日数が多い。塾種間では大都市，中都市ともに珠算塾，学習塾，スポーツ教室，書道塾，音楽教室の順で通塾日数が多いという結果であった。

表3には，各塾種での1回の学習・練習時間をまとめて示した。

**表3**　1回の学習・練習時間　（%）

| | 大都市 | | | | | 中都市 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 |
| 60分以内 | 22.3 | 96.9 | 58.2 | 34.0 | 86.1 | 64.6 | 77.3 | 61.0 | 39.1 | 98.5 |
| 61～90分 | 38.8 | 2.1 | 17.7 | 29.8 | 6.9 | 20.5 | 20.5 | 13.0 | 26.1 | 0.0 |
| 91～120分 | 23.4 | 1.0 | 16.5 | 23.4 | 4.2 | 13.4 | 2.3 | 14.3 | 30.4 | 0.0 |
| 121分以上 | 15.4 | 0.0 | 7.6 | 12.8 | 2.8 | 1.6 | 0.0 | 11.7 | 4.4 | 1.5 |

i．表3では時間の長さを30分を区切りにした4段階で示した。最頻値は，大都市学習塾は61～90分，珠算塾は60分以内，また書道塾，スポーツ教室，音楽教室も60分以内である。中都市ではすべての塾種でその最頻値は60分以内にあった。ただし，大都市の珠算塾，中都市の音楽教室を除くと学習・練習時間には塾による差がみられ，とくに学習塾，スポーツ教室でバラエティが大きい傾向が示されたのである。

j．最頻値だけではなく，分布の状態も考慮すると，学習塾では大都市の方が，珠算塾では中都市の方が1回の学習・練習時間が長い傾向がある。音楽教室は大都市の方が時間がやや長い傾向がある。書道塾とスポーツ教室は大都市，中都市の間に著しい差は認められない。

表4には，表2と表3の結果を基礎に算出した週あたりの学習・練習時間を示した。

k．学習塾の週あたり学習時間は，大都市でその最頻値が241～360分にあり，中都市では121～240分に最頻値があった。大都市と中都市とを比べると，大都市の学習塾の方が学習時間は長い。他のけいこごと塾と比

表4　週あたりの学習・練習時間　　(%)

| | 大都市 | | | | | 中都市 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 |
| 120分以内 | 12.2 | 1.0 | 73.4 | 48.9 | 94.4 | 36.2 | 0.0 | 76.6 | 60.9 | 98.5 |
| 121～240分 | 31.9 | 69.1 | 24.1 | 19.1 | 2.8 | 51.2 | 70.5 | 16.9 | 26.1 | 1.5 |
| 241～360分 | 35.6 | 21.6 | 2.5 | 21.3 | 2.8 | 8.7 | 27.3 | 2.6 | 6.5 | 0.0 |
| 361～480分 | 3.7 | 8.2 | 0.0 | 2.1 | 0.0 | 3.1 | 2.3 | 3.9 | 2.2 | 0.0 |
| 481～600分 | 3.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.4 | 0.0 |
| 601分以上 | 13.3 | 0.0 | 0.0 | 8.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

べると，大都市，中都市ともに，学習塾は書道塾，スポーツ教室，音楽教室よりも学習・練習時間は長い。ただ，珠算塾とは分布の違いから明確な比較はできなかった。なお，大都市の学習塾は，被調査者によってその時間のばらつきが大きい。塾によって学習時間に大きな差があることがうかがえる。とりわけ，601分以上のカテゴリーに13.3%もの回答がみられる。これは非通塾者も合わせた全被調査者の6.8%にあたる。小学校6年生で1週間に10時間以上を学習塾ですごす者がこれほどの割合いるということは注目に値しよう。

l．珠算塾での週あたり練習時間は，大都市，中都市ともに121～240分に最頻値があり，その分布も類似していた。けいこごとの中では費す時間が最も長いことが明らかにされた。

m．書道塾，スポーツ教室，音楽教室は，大都市，中都市ともにその練習時間の最頻値は120分以内であった。とりわけ音楽教室は120分以内という回答が大都市，中都市ともに90%をこえて集中し，けいこごとの中では週あたりの練習時間が最も短いことが示された。スポーツ教室は最頻値が120分以内にあるものの，それ以上の時間を費すという回答も多く，珠算塾についで練習時間が長いことが示された。大都市のスポーツ教室では601分以上とする回答が8.5%みられた。

## 2．通塾者の塾に対する態度

表5～表9は，当該塾に通っていると回答した子どもの，その塾に対する態度を中心に質問した結果を示している。表中の数値は通塾者数をもとにした%である。各表中の項目は，塾種に応じた表現の変更を加えてはいるが，質問内容はほぼ同じ側面をたずねている。同一番号の項目同士をつき合せることによって，塾種間の比較が可能である。

項目①～③は，通塾の効果面を質問している。項目④は，子どもがみずからすすんで通塾しているか否かをたずねている。

項目⑤～⑬は，「塾の指導者」，「塾の仲間」，「塾での学習内容」の3つの側面に対する態度を質問している。⑤，⑧，⑪は「塾の指導者」，⑥，⑨，

表5　通塾者の態度（学習塾）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①塾に行くことは自分のためになる | 89.9 | 9.0 | 1.1 | 82.6 | 17.3 | 0.0 |
| ②塾のおかげで勉強がよくわかるようになった | 67.0 | 28.2 | 4.8 | 67.7 | 31.5 | 0.8 |
| ③塾のおかげで勉強がすきになってきた | 23.4 | 58.0 | 18.6 | 26.0 | 59.8 | 14.2 |
| ④塾へは自分からすすんでかよっている | 56.4 | 26.1 | 17.6 | 63.0 | 21.3 | 15.7 |
| ⑤今の塾の先生はすきだ | 38.8 | 39.9 | 21.3 | 45.7 | 42.5 | 11.8 |
| ⑥今の塾の友だちはすきだ | 68.1 | 22.3 | 9.6 | 68.5 | 26.0 | 5.5 |
| ⑦今の塾の勉強のなかみはすきだ | 35.6 | 42.6 | 21.8 | 43.3 | 47.2 | 9.4 |
| ⑧今の塾の先生は尊敬(そんけい)できる | 44.7 | 36.2 | 19.1 | 44.1 | 45.7 | 10.2 |
| ⑨今の塾の友だちはしっかりしている | 35.1 | 43.1 | 21.8 | 38.6 | 49.6 | 11.8 |
| ⑩今の塾の勉強のなかみはよい | 47.9 | 39.9 | 12.2 | 55.9 | 38.6 | 5.5 |
| ⑪今の塾の先生ともっとつきあいたい | 14.4 | 51.6 | 34.0 | 14.2 | 56.7 | 29.1 |
| ⑫今の塾の友だちともっとつきあいたい | 46.8 | 39.4 | 13.8 | 42.5 | 47.2 | 10.2 |
| ⑬今の塾でもっと勉強したい | 38.8 | 44.1 | 11.7 | 48.0 | 39.4 | 12.6 |

表6　通塾者の態度（珠算塾）　(%)

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①そろばん塾に行くことは自分のためになる | 79.4 | 15.5 | 5.2 | 81.8 | 13.6 | 4.5 |
| ②塾のおかげでそろばんがじょうずになった | 90.7 | 5.2 | 4.1 | 87.5 | 12.5 | 0.0 |
| ③塾のおかげでそろばんがすきになってきた | 34.0 | 47.4 | 18.6 | 21.6 | 52.3 | 26.1 |
| ④そろばん塾へは自分からすすんでかよっている | 55.7 | 25.8 | 18.6 | 56.8 | 27.3 | 15.9 |
| ⑤今のそろばん塾の先生はすきだ | 51.5 | 39.2 | 9.3 | 25.0 | 46.6 | 28.4 |
| ⑥今のそろばん塾の友だちはすきだ | 54.6 | 36.1 | 9.3 | 55.7 | 37.5 | 6.8 |
| ⑦今のそろばん塾の勉強のなかみはすきだ | 34.0 | 45.4 | 20.6 | 15.9 | 56.8 | 25.0 |
| ⑧今のそろばん塾の先生は尊敬(そんけい)できる | 50.5 | 34.0 | 15.5 | 31.8 | 51.1 | 17.0 |
| ⑨今のそろばん塾の友だちはしっかりしている | 18.6 | 53.6 | 27.8 | 28.4 | 53.4 | 18.2 |
| ⑩そろばんができることはたいせつなことだ | 66.0 | 27.8 | 6.2 | 66.3 | 30.3 | 3.4 |
| ⑪今のそろばん塾の先生ともっとつきあいたい | 19.6 | 49.5 | 30.9 | 5.7 | 59.1 | 35.2 |
| ⑫今のそろばん塾の友だちともっとつきあいたい | 40.2 | 44.3 | 15.5 | 38.6 | 56.8 | 4.5 |
| ⑬今の塾でもっとそろばんを習いたい | 34.0 | 43.3 | 22.7 | 23.9 | 50.0 | 26.1 |

⑫は「塾の仲間」，⑦，⑩，⑬は「塾での学習内容」に対する質問である。また，⑤，⑥，⑦は態度の感情的側面を，⑧，⑨，⑩は態度の評価的側面を，⑪，⑫，⑬は態度の行動的側面を吟味することを意図している。

a．項目①では，当該塾に行くことが「自分のためになる」とする回答の割合が，各塾種を通して一貫して大きい。大都市の音楽教室が69.4%であったのを除き，その他はすべて75%をこえる回答が通塾をポジティヴにとらえたものであった。大都市では，学習塾（89.9%），スポーツ教室（85.1%），珠算塾（79.4%），書道塾（76.5%），音楽教室（69.4%）の順に上記の方向の回答が多い。中都市ではそれが，スポーツ教室（91.3%），書道塾（86.3%），学習塾（82.6%），珠算塾（81.8%），音楽教室（79.1%），

表7　通塾者の態度（書道塾）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①習字の塾に行くことは自分のためになる | 76.5 | 17.6 | 5.9 | 86.3 | 13.7 | 0.0 |
| ②習字の塾のおかげで字がうまくなった | 69.4 | 24.7 | 5.9 | 82.2 | 15.1 | 2.7 |
| ③塾のおかげで習字がすきになってきた | 51.8 | 34.1 | 14.1 | 61.6 | 35.6 | 2.7 |
| ④習字の塾へは自分からすすんでかよっている | 57.6 | 27.1 | 15.3 | 78.1 | 13.7 | 8.2 |
| ⑤今の習字の塾の先生はすきだ | 58.8 | 34.1 | 7.1 | 68.5 | 27.4 | 4.1 |
| ⑥今の習字の塾の友だちはすきだ | 56.5 | 35.3 | 8.2 | 49.3 | 37.0 | 13.7 |
| ⑦習字をすることはすきだ | 60.0 | 32.9 | 7.1 | 61.6 | 32.9 | 5.5 |
| ⑧今の習字の塾の先生は尊敬（そんけい）できる | 58.8 | 34.1 | 7.1 | 74.0 | 24.7 | 1.4 |
| ⑨今の習字の塾の友だちはしっかりしている | 29.4 | 51.8 | 18.8 | 31.5 | 58.9 | 9.6 |
| ⑩字を習うことはたいせつなことだ | 61.2 | 36.5 | 2.4 | 68.5 | 31.5 | 0.0 |
| ⑪今の習字の塾の先生ともっとつきあいたい | 24.7 | 60.0 | 15.2 | 37.0 | 49.3 | 13.7 |
| ⑫今の習字の塾の友だちともっとつきあいたい | 34.1 | 54.1 | 11.8 | 38.4 | 52.1 | 9.6 |
| ⑬今の習字の塾でもっと字を習いたい | 51.8 | 38.8 | 9.4 | 61.6 | 31.5 | 6.8 |

という順序であり，大都市とはやや異なる結果であった。

b．項目①では，書道塾，スポーツ教室，音楽教室については大都市に比べて中都市で，通塾が「自分のためになる」という回答が多い傾向がある。とくに書道塾とスポーツ教室では，その差がほぼ10%あった。同じけいこごとでも，珠算塾は大都市，中都市の差が小さかった。学習塾は中都市に比べ，大都市でポジティヴに評価される傾向が認められた。

c．項目②でたずねた，通塾によって当該塾で扱う指導内容が上達したかどうかについては，全体に上達したという方向の回答の割合が大きい結果であった。それが⅔を割る塾種は，大都市，中都市でともにみられない。上達感の高さは，大都市では珠算塾（90.7%），スポーツ教室（74.5%），書

表8　通塾者の態度（スポーツ教室）　(%)

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①スポーツを習うことは自分のためになる | 85.1 | 8.5 | 6.4 | 91.3 | 8.7 | 0.0 |
| ②スポーツを習っているおかげでそのスポーツがじょうずになった | 74.5 | 17.0 | 8.5 | 89.1 | 10.9 | 0.0 |
| ③スポーツを習っているおかげでスポーツがすきになった | 55.3 | 31.9 | 12.8 | 60.9 | 32.6 | 6.5 |
| ④スポーツは自分からすすんで習いに行っている | 68.1 | 12.8 | 19.1 | 78.3 | 13.0 | 8.7 |
| ⑤今のスポーツの先生はすきだ | 46.8 | 29.8 | 23.4 | 39.1 | 45.7 | 15.2 |
| ⑥今のスポーツの教室・道場の友だちはすきだ | 83.0 | 10.6 | 6.4 | 80.4 | 19.6 | 0.0 |
| ⑦今習っているスポーツはすきだ | 70.2 | 19.1 | 10.6 | 78.3 | 17.4 | 4.3 |
| ⑧今のスポーツの先生は尊敬（そんけい）できる | 59.6 | 19.1 | 21.3 | 47.8 | 43.5 | 8.7 |
| ⑨今のスポーツの教室・道場の友だちはしっかりしている | 31.9 | 53.2 | 14.9 | 60.9 | 32.6 | 6.5 |
| ⑩スポーツを習うことはたいせつなことだ | 63.8 | 29.8 | 6.4 | 63.0 | 34.8 | 2.2 |
| ⑪今のスポーツの先生ともっとつきあいたい | 31.9 | 34.0 | 34.0 | 26.1 | 54.3 | 19.6 |
| ⑫今のスポーツの教室・道場の友だちともっとつきあいたい | 53.2 | 29.8 | 17.0 | 60.9 | 32.6 | 6.5 |
| ⑬今のスポーツをもっと習いたい | 61.7 | 29.8 | 8.5 | 65.2 | 30.4 | 4.3 |

道塾（69.4%），学習塾（67.0%），音楽教室（66.7%）の順であり，中都市ではスポーツ教室（89.1%），珠算塾（87.5%），書道塾（70.1%），音楽教室（70.1%），学習塾（67.7%）の順であった。大都市，中都市ともに，塾での上達感は珠算塾，スポーツ教室で相対的に高い。一方，学習塾，音楽教室は他の塾種に比べて上達感は相対的に低いことが示された。

d．項目②による質問に対して「いいえ」，すなわち上達感がないと明確に答えた者の割合は，大都市の音楽教室では10%をこえた。大都市のその他の4塾種では5%前後の者がそのような否定的な方向の回答をした。一方中都市では塾での上達感を否定する回答は極めて少なかった。

e．項目②の回答を大都市，中都市間で比較すると，書道塾とスポーツ

**表9**　通塾者の態度（音楽教室）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①おけいこに行くことは自分のためになる | 69.4 | 20.8 | 9.7 | 79.1 | 16.4 | 4.5 |
| ②おけいこのおかげで音楽が得意（とくい）になった | 66.7 | 22.2 | 11.1 | 70.1 | 26.9 | 3.0 |
| ③おけいこのおかげで音楽がすきになった | 66.7 | 12.5 | 20.8 | 68.7 | 23.9 | 7.5 |
| ④おけいこへは自分からすすんでかよっている | 59.2 | 23.6 | 16.7 | 65.7 | 23.9 | 10.4 |
| ⑤今のおけいこの先生はすきだ | 55.6 | 27.8 | 16.7 | 59.7 | 29.9 | 10.4 |
| ⑥今のおけいこでであう友だちはすきだ | 31.9 | 40.3 | 27.8 | 35.8 | 58.2 | 6.0 |
| ⑦今のおけいこで習っている音楽はすきだ | 62.5 | 23.6 | 13.9 | 65.7 | 29.9 | 4.5 |
| ⑧今のおけいこの先生は尊敬（そんけい）できる | 62.5 | 23.6 | 13.9 | 61.2 | 29.9 | 9.0 |
| ⑨今のおけいこでであう友だちはしっかりしている | 15.3 | 52.8 | 31.9 | 31.3 | 62.7 | 6.0 |
| ⑩今おけいこしている音楽はすばらしい | 44.4 | 37.5 | 18.1 | 31.3 | 61.2 | 7.5 |
| ⑪今のおけいこの先生ともっとつきあいたい | 31.9 | 44.4 | 23.6 | 34.3 | 52.2 | 13.4 |
| ⑫今のおけいこの友だちともっとつきあいたい | 19.4 | 50.0 | 30.6 | 23.9 | 62.7 | 13.4 |
| ⑬今のおけいこをもっと習いたい | 51.4 | 30.6 | 18.1 | 50.7 | 38.8 | 10.4 |

教室で中都市の方が大都市に比べて上達感が大きいことが示された。その他の塾種では大都市と中都市の間の差は小さい。

f．項目③では，通塾によって当該塾での学習内容が好きになったか否かをたずねたが，「好きになった」とする回答の割合は塾種によって異なる結果であった。好きになったという回答は，大都市では音楽教室（66.7%），スポーツ教室（55.3%），書道塾（51.8%），珠算塾（34.0%），学習塾（23.4%）の順で多く，中都市ではそれが，音楽教室（68.7%），書道塾（61.6%），スポーツ教室（60.9%），学習塾（26.0%），珠算塾（21.6%）であった。総じて，大都市，中都市ともに，学習塾と珠算塾は，好きになったという回答が少なく，書道塾，スポーツ教室，音楽教室の3塾種は，そ

れが半数から7割近くを占め，比較的ポジティヴな方向にあることが示された。

g．項目③で「いいえ」，すなわち当該塾種での学習内容が好きにならなかったとする回答は，大都市の音楽教室と中都市の珠算塾で20%台みられた。10%台の塾種としては，大都市の学習塾（18.6%），珠算塾（18.6%），書道塾（14.1%），スポーツ教室（12.8%），中都市の学習塾（14.2%）がある。中都市の書道塾，スポーツ教室は10%未満と少なかった。大都市の音楽教室は「はい」が他の塾種に比べて多い一方，「いいえ」も相対的に多く，評価が両極に分かれる傾向がみられた。また，珠算塾は，中都市では「いいえ」の方向に強い傾向がみられる結果であった。

h．項目③では，珠算塾を除く塾種で，大都市より中都市で，当該塾種での学習内容を好きになったという方向の回答が多い。

i．項目④では，当該塾にみずからすすんで通っているか否かをたずねた。通塾の自律性を査定する意味合いをもつ項目である。「はい」という回答，すなわち，みずからすすんで通っているのだという回答は，大都市，中都市通して，すべての塾種で半数をこえた。多くは50%台であるが，大都市のスポーツ教室，中都市の学習塾，音楽教室は60%台の回答者が「はい」と答え，中都市の書道塾，スポーツ教室は78%台となっている。それに対して「いいえ」，すなわちみずからすすんで通ってはいないという回答は，大都市，中都市のすべての塾種で20%に満たない結果であった。塾種間では，すすんで通うという回答の割合が最も大きいのはスポーツ教室であり（大都市68.1%，中都市78.3%），ついで書道塾（大都市57.6%，中都市78.1%）と音楽教室（大都市59.2%，中都市65.7%）であった。相対的には珠算塾が，すすんで通う者の割合が小さかった。

j．項目④では，すすんで塾に通う者の割合が，すべての塾種で，大都市よりも中都市で大きいことが示された。その差は書道塾，スポーツ教室で大きいことも示された。

k．項目⑤は，塾の指導者に対する態度のうちの感情的側面を検討するためのものである。ポジティヴな方向の回答が50%をこえたのは，大都市

の珠算塾（51.5%），書道塾（58.8%），音楽教室（55.6%），中都市の書道塾（68.5%），音楽教室（59.7%）である。塾種間を比較すると，書道塾の指導者に対して好意的な回答が最も多い。ついで音楽教室の指導者である。学習塾（大都市38.8%，中都市45.7%）とスポーツ教室（大都市46.8%，中都市39.1%）は類似の結果である。「はい」への回答の割合と，「いいえ」への回答の割合をつき合せると，中都市の珠算塾を除いて大部分はポジティヴな感情方向に偏る結果である。中都市の珠算塾のみ，指導者に対する態度に否定的な回答が多い結果であった。

l．項目⑧は，塾の指導者に対する態度の評価的側面について検討する項目である。当該塾の指導者を「尊敬できるか」という質問に対して「はい」と答えた者は「いいえ」と答えた者に比べて，大都市，中都市ともに，すべての塾種で明らかに多い結果であった。ポジティヴな方向の回答が50%をこえたのは，大都市の珠算塾（50.5%），書道塾（58.8%），スポーツ教室（59.6%），音楽教室（62.5%），中都市の書道塾（74.0%），音楽教室（61.2%）であった。中都市の書道塾はとりわけそこでの指導者への高い評価を与えられている。大都市と中都市とを比べると，書道塾を除いてはすべて大都市の方にポジティヴな方向の回答が多い。ただし，大都市では，ネガティヴな方向の回答（これは大都市のスポーツ教室の21.3%を除けば，すべて20%未満であるが）も，中都市に比べて，珠算塾を除いてはその割合の大きいことがあわせて明らかになった。大都市と中都市とを一緒にして結果をながめると，項目⑤のときと同様，書道塾と音楽教室の指導者への態度が，他の塾種に比べると，よりポジティヴであることをうかがうことができる。

m．項目⑪は，塾指導者への態度の行動的側面をたずねたものである。この側面では，ポジティヴな方向の態度を示す塾種は必ずしも多くはない。塾指導者と「もっとつきあいたい」という回答は，大都市のスポーツ教室（31.9%），音楽教室（31.9%），中都市の書道塾（37.0%），音楽教室（34.3%）といったところが30%台で多い方であった。全般的には，音楽教室が他の塾種に比べて指導者への態度が積極的である。ついで書道塾（大

都市では24.7%）とスポーツ教室（中都市では26.1%）で積極性が強い傾向がみられる。学習塾（大都市14.4%，中都市14.2%）と珠算塾（大都市19.6%，中都市5.7%）は，残りの3塾種に比べると指導者に対する態度が消極的である。「いいえ」という回答，すなわち，塾指導者とつき合いたくないという回答は，先の検討結果に対応して，学習塾（大都市34.0%，中都市29.1%）と珠算塾（大都市30.9%，中都市35.2%）に多かった。なお，大都市のスポーツ教室（34.0%）は積極的な方向の回答が比較的多いにもかかわらず，消極的方向の回答も多くみられ，態度が分極化する傾向をうかがうことができた。

n．項目⑤，⑧，⑪という，塾の指導者に対する態度に関する結果を通してみると，書道塾と音楽教室の指導者への態度が，他の塾種に比べてポジティヴな方向性が強いことが明らかとなった。スポーツ教室はこの2塾種についでいる。それに対して，学習塾の指導者に対しては，ポジティヴな方向の結果が相対的に一貫して少なかった。珠算塾は，大都市と中都市とでその結果に違いがみられた。大都市の珠算塾は，行動面を除いてはスポーツ教室と類似の結果であったが，中都市では，他の4塾種と比べて指導者に対する態度が明らかに消極的であった。なお，回答の，「はい」，「いいえ」への分布をみると，スポーツ教室では各側面で「いいえ」への回答も多く，指導者への態度が2様に分かれていることがうかがえたのである。

o．項目⑥では，塾の友人に対する態度の感情的側面を質問した。塾種間では，大都市，中都市でともにスポーツ教室で，友人に対するポジティヴな方向の回答が明らかに多い結果がみられた。その回答は80%をこえている。ついで多くポジティヴな方向の回答がみられたのは学習塾であった（大都市，中都市ともに68%台)。珠算塾，書道塾では友人を好意的に回答する者は50%前後みられた。ただし，中都市の書道塾は，ネガティヴな方向の回答が13.7%みられ，大都市の書道塾や珠算塾に比べて友人への態度の積極性はやや低い。友人に対するポジティヴな態度が最も少ないのは音楽教室であった。大都市，中都市で30%台の回答しか「はい」と答え

ていない。とりわけ大都市の音楽教室では，ネガティヴな方向の回答が27.8%と多くみられる結果であった。

p．項目⑨では，塾の友人に対する態度の評価的側面を質問した。当該塾の友人は「しっかりしているか」という質問内容のためもあってか，項目⑥の結果に比べると，大都市，中都市の各塾種で「はい」とする回答が少ない。大都市では学習塾（35.1%），スポーツ教室（31.9%），書道塾（29.4%）が，ポジティヴな方向の回答が相対的に多くみられた塾種である。中都市では1つスポーツ教室でポジティヴな方向の回答が60.9%と多い結果であった。残りの塾種では学習塾（38.6%）がそれについでおり，残る3塾種も30%前後がポジティヴな方向の回答をした。大都市の珠算塾と音楽教室では，ポジティヴな方向の回答よりも，ネガティヴな方向の回答の割合の方が大きく，塾内の友人への評価が低いことが示された。なお，大都市に比べて，すべての塾種で中都市の方でポジティヴな方向の回答が多い傾向がみられた。

q．項目⑫では，塾の友人への態度の行動的側面を「もっとつき合いたいか」という形で質問した。大都市，中都市ともにポジティヴな方向の回答が最も多いのはスポーツ教室であった（大都市53.2%，中都市60.9%）。2番目はやはり大都市，中都市ともに，学習塾で同様の回答が多い結果がみられた（大都市46.8%，中都市42.5%）。ついで珠算塾（大都市40.2%，中都市38.6%），さらに書道塾（大都市34.1%，中都市38.4%）という結果である。最もポジティヴな方向の回答が少ない塾種は音楽教室であった（大都市19.4%，中都市23.9%）。ことに，大都市の音楽教室は「いいえ」というネガティヴな方向の回答の割合（30.6%）の方が多く，他の塾種と違った結果が示された。

r．項目⑥，⑨，⑫で調査した，当該塾の友人に対する態度は，総じてスポーツ教室で最も多くポジティヴな方向の回答がみられた。それにつぐのは学習塾であり，これらの結果は態度の3つの側面で一貫していた。最も友人関係面でポジティヴな方向の回答が少なかったのは，ほぼ一貫して音楽教室である。珠算塾，書道塾は中間の傾向にある結果を示した。なお，

大都市の音楽教室を除いては，すべての塾種で，程度の差はあるが，ポジティヴな方向の回答がネガティヴな方向の回答をうわまわるという結果がみられている。

s．項目⑦では，当該塾種での学習内容に対する態度の感情的側面を質問した。習っている内容が好きだという回答は，スポーツ教室（大都市70.2%，中都市78.3%），音楽教室（大都市62.5%，中都市65.7%），書道塾（大都市60.0%，中都市61.6%）の3塾種では半数をこえた。一方，学習塾（大都市35.6%，中都市43.3%），珠算塾（大都市34.0%，中都市15.9%）の2塾種では，ポジティヴな方向の回答は半数をこえなかった。また，それらの塾種ではネガティヴな方向の回答は20%をこえる場合が多く，とりわけ中都市の珠算塾ではネガティヴな方向に偏った結果がみられた。なお，珠算塾を除いては，各塾種で大都市よりも中都市にポジティヴな方向の回答が多い結果であった。

t．項目⑩では，当該塾種での学習内容に対する態度の評価的側面を質問した。ただし，質問内容が，珠算塾，書道塾，スポーツ教室の3塾種に対して，学習塾，音楽教室はそれぞれ異なっているため，必ずしも同列に比較することはできないかもしれない。珠算塾，書道塾，スポーツ教室ともに，当該塾種での学習内容は大切だと考える回答が60%台を占め，明らかにポジティヴな方向の態度をうかがうことができた。学習塾では，そこでの学習内容をよいとする回答が大都市で47.9%，中都市で55.9%であり，全体的にポジティヴな方向の結果がみられた。音楽教室では，そこで学ぶ音楽はすばらしいと答えたものは大都市で44.4%，中都市で31.3%であった。ネガティヴな方向の回答とあわせてみると，音楽塾でも全体としてはポジティヴな態度がみられる。

u．項目⑬では，当該塾でもっと学習したいか否かをたずねた。塾の内容に対する態度の行動的側面を質問したのである。ポジティヴな方向の回答の割合の多寡の順序は，大都市，中都市ともに同様であった。すなわち，スポーツ教室（大都市61.7%，中都市65.2%），書道塾（大都市51.8%，中都市61.6%），音楽教室（大都市51.4%，中都市50.7%），学習塾（大都市

38.8%，中都市48.0%），珠算塾（大都市34.0%，中都市23.9%）の順であった。上位の3塾種では，ともにポジティヴな回答が半数をこえた。一方，珠算塾はネガティヴな方向の回答が多く（大都市22.7%，中都市26.1%），とりわけ中都市ではネガティヴな方向に偏る傾向がみられたのである。

V．項目⑦，⑩，⑬で調査した，当該塾種での学習内容に対する態度は，3つの側面でほぼ一貫して書道塾とスポーツ教室でポジティヴな方向の回答が他の塾種に比べて多い結果であった。珠算塾は，評価的側面で，音楽教室は感情的側面と評価的側面ではポジティヴな方向の態度が多く示された。学習塾はそこでの学習内容に対する態度が全般にポジティヴな方向にあるものの，他の塾種に比べるとその傾向が弱いという結果であった。

### 3．非通塾者の塾に対する意識

表10～表14には，当該塾に通っていない児童への質問内容と，その結果を示した。学習塾の項目④，珠算塾の項目④，音楽教室の項目④を除くと，5つの塾種を通して互いに対応する質問項目が準備されている。各表中の数値は，非通塾者数を分母として算出した%である。

**表10**　非通塾者の意識（学習塾）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①学校の勉強だけでよくわかるので塾はいらない | 17.6 | 41.2 | 41.2 | 18.5 | 47.8 | 33.7 |
| ②勉強はきらいだから塾へは行かない | 12.6 | 30.8 | 56.6 | 14.1 | 45.4 | 40.5 |
| ③ほかの塾やけいこごとで勉強の塾へ行くひまがない | 11.5 | 25.3 | 63.2 | 12.7 | 22.0 | 65.4 |
| ④家庭教師がいるので塾は必要ない | 4.4 | 12.1 | 83.5 | 1.0 | 16.1 | 82.9 |
| ⑤近くにいい塾がない | 16.5 | 22.5 | 61.0 | 18.0 | 20.5 | 61.5 |
| ⑥お父さんやお母さんは学習塾に行けという | 26.4 | 30.8 | 42.9 | 19.5 | 27.3 | 53.2 |
| ⑦学習塾に行きたいと思っている | 25.8 | 37.4 | 36.8 | 14.6 | 30.7 | 54.6 |
| ⑧学習塾はみりょくがある | 8.8 | 45.6 | 45.6 | 5.9 | 35.1 | 59.0 |

表11　非通塾者の意識（珠算塾）　(%)

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①そろばんをじょうずになろうとは思わない | 22.0 | 38.5 | 39.6 | 20.1 | 49.6 | 30.3 |
| ②そろばんのようなことはきらいだから習わない | 16.8 | 38.5 | 44.7 | 14.3 | 51.2 | 34.4 |
| ③ほかの塾やけいこごとでそろばん塾に行くひまがない | 35.2 | 16.8 | 48.0 | 12.3 | 32.0 | 55.7 |
| ④そろばんは学校の勉強と関係ないので必要ない | 13.6 | 39.6 | 46.9 | 10.7 | 48.4 | 41.0 |
| ⑤近くにいいそろばん塾がない | 7.7 | 17.6 | 74.7 | 7.4 | 25.8 | 66.8 |
| ⑥お父さんやお母さんはそろばん塾に行けという | 9.5 | 26.0 | 64.5 | 6.6 | 33.6 | 59.8 |
| ⑦そろばん塾に行きたいと思っている | 7.0 | 37.4 | 55.7 | 4.5 | 36.5 | 59.0 |
| ⑧そろばん塾はみりょくがある | 2.9 | 42.9 | 54.2 | 2.5 | 39.3 | 58.2 |

表12　非通塾者の意識（書道塾）　(%)

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①学校で習字の授業があるので塾はいらない | 21.4 | 41.4 | 37.2 | 26.7 | 46.7 | 26.7 |
| ②習字はきらいだから習いに行かない | 20.0 | 31.2 | 48.8 | 17.6 | 39.2 | 43.1 |
| ③ほかの塾やけいこごとで習字の塾に行くひまがない | 31.6 | 18.6 | 49.8 | 16.5 | 25.5 | 58.0 |
| ④近くにいい習字の塾がない | 15.4 | 18.9 | 65.6 | 7.8 | 26.7 | 65.5 |
| ⑤お父さんやお母さんは習字の塾に行けという | 11.2 | 26.3 | 62.5 | 4.3 | 26.7 | 69.0 |
| ⑥習字の塾に行きたいと思っている | 8.1 | 33.7 | 58.2 | 8.2 | 31.8 | 60.0 |
| ⑦習字の塾はみりょくがある | 5.6 | 36.1 | 58.2 | 4.7 | 38.8 | 56.5 |

a．各塾種の項目①では，当該塾種での学習内容の学習必要性の有無に関する意識を調査した。これによれば，当該塾を不要とする回答はすべて30% 未満であった。大都市と中都市を比較すると，当該塾はむしろ必要と

表13　非通塾者の意識（スポーツ教室）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①学校の体育やクラブや家での遊びがあればスポーツは習わなくてもよい | 18.9 | 37.6 | 43.5 | 27.7 | 49.5 | 22.8 |
| ②スポーツはきらいだから習いに行かない | 5.6 | 22.4 | 72.0 | 3.5 | 29.1 | 67.4 |
| ③ほかの塾やけいこごとでスポーツを習うひまがない | 27.3 | 21.1 | 51.6 | 16.1 | 24.9 | 58.9 |
| ④近くにいいスポーツの教室や道場がない | 22.4 | 21.7 | 55.9 | 36.1 | 27.7 | 36.1 |
| ⑤お父さんやお母さんはスポーツを習うようにいっている | 13.4 | 28.0 | 58.7 | 6.7 | 27.7 | 65.6 |
| ⑥スポーツの教室や道場に行きたいと思っている | 33.5 | 31.7 | 34.8 | 20.0 | 40.4 | 39.6 |
| ⑦スポーツを習うことはみりょくがある | 32.6 | 40.7 | 26.7 | 21.8 | 49.5 | 28.8 |

表14　非通塾者の意識（音楽教室）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①音楽は学校でやったり、テレビ、ラジオできくからおけいこしなくてよい | 27.5 | 39.9 | 32.6 | 29.8 | 47.9 | 22.3 |
| ②音楽はきらいだからおけいこには行かない | 29.2 | 28.5 | 42.3 | 33.2 | 30.6 | 36.2 |
| ③ほかの塾やけいこごとで音楽のおけいこに行くひまがない | 21.1 | 24.5 | 54.4 | 15.1 | 25.7 | 59.2 |
| ④音楽を教えにきてもらっているのででかける必要がない | 3.0 | 11.4 | 85.6 | 3.8 | 24.5 | 71.7 |
| ⑤近くにいい先生がいない、いい音楽教室がない | 24.8 | 21.5 | 53.7 | 15.1 | 32.8 | 52.1 |
| ⑥お父さんやお母さんは音楽のおけいこに行けといっている | 4.7 | 15.8 | 79.5 | 3.0 | 13.2 | 83.8 |
| ⑦音楽のおけいこごとに行きたいと思っている | 11.7 | 20.8 | 67.4 | 13.2 | 17.7 | 69.1 |
| ⑧音楽のおけいこごとはみりょくがある | 12.8 | 25.8 | 61.4 | 11.3 | 24.5 | 64.2 |

いう方向の回答が，一貫して大都市で多い傾向がみられた。スポーツ教室，学習塾では40%をこえ，その他の塾種でもその方向の回答は30%をこえている。中都市では，学習塾と珠算塾は大都市と類似した結果であったが，

スポーツ教室と音楽教室は不要という方向の回答が多い。書道塾は不要と必要が丁度同数であった。総じて，塾に通っていない子どもとはいえ，さまざまな塾を不要だとする回答はむしろ少ない。学習塾では大都市，中都市ともに学校の勉強だけで十分だという答えは少数派であることが明らかである。

b．各塾種の項目②では，当該塾での学習内容がきらいだということが，その塾に行かない原因の1つになっているかどうかを質問した。全般に，「はい」という答えは少なく，大都市，中都市ともに「いいえ」の方向に偏る結果であった。ただし，塾種によるその偏りのバラエティは認められる。「きらい」が原因になっているという回答は，大都市，中都市ともに，音楽教室（大都市29.2%，中都市33.2%），書道塾（大都市20.0%，中都市17.6%），珠算塾（大都市16.8%，中都市14.3%），学習塾（大都市12.6%，中都市14.1%），スポーツ教室（大都市5.6%，中都市3.5%）の順であった。とりわけスポーツ教室でのこの方向の回答の少なさは特徴的であった。また，音楽教室でのこの方向の回答の相対的な多さも特徴的であった。

c．各塾種の項目③では，他の種類のけいこごとや塾に行くために当該塾に行くひまがないということが非通塾の理由になっているか否かをたずねた。ここでは学習塾を除いた4種のけいこごと塾で，中都市に比べて一貫して大都市に，当該塾に行くひまがないという理由が多く示されている。大都市では20～30%台が「はい」と答えているのに対して，中都市はそれが10%台である。大都市の方が塾に費す時間が多いという表2～4の結果と整合する結果であった。一方，学習塾はここであげた理由を非通塾の理由とすることは少なかった（大都市11.5%，中都市12.7%）。これらの結果は，小学校6年生では，通う塾種として新たに学習塾を選ぶという傾向をうかがわせるものであった。

d．学習塾と音楽教室の項目④は，家庭教師や個人レッスンをうけていることを塾に通わない理由にしている者の割合を調査する項目である。大都市，中都市でともに学習塾も音楽教室も，非通塾の理由としてこれをあげている回答は5%に満たず，少ない結果であった。

e．珠算塾の項目④は，そろばんは学校の勉強に関係しないので塾に行く必要はないとする理由をかかげて質問したものである。実際には小学校3年生の算数でそろばんは教材となっているのだが，大都市で13.6%，中都市で10.7%の者がこの理由を非通塾の理由としてあげたのである。

f．学習塾，珠算塾，音楽教室の項目⑤と，書道塾，スポーツ教室の項目④は，近くによい塾がないのが当該塾種に通わない理由だという回答の割合を調べるものである。近くによい塾がないという回答が最も少ないのは，大都市，中都市ともに珠算塾であった。珠算塾ではこの項目で「はい」とする回答は10%に満たない。ついで少ないのは，大都市，中都市ともに書道塾であった（大都市15.4%，中都市7.8%）。また，大都市と中都市の学習塾，中都市の音楽教室は，ここでの理由をあげる者の割合は10%台であり，「いいえ」への回答と比べると高い割合とはいえない結果であった。近くによい塾がないことを理由にあげた者が多かったのはスポーツ教室であった（大都市22.4%，中都市36.1%）。また，大都市の音楽教室もその割合が24.8%と，他の塾種との相対では高い結果であった。この項目で「はい」という回答が多ければ，その地域で当該塾種の塾の数が少ないことがうかがえる。また，それは，もしよい塾が近くにあれば通塾したいという含みをもつ回答でもあるので，スポーツ教室は大都市，中都市で，音楽教室は大都市で，潜在的な通塾志望者の多い可能性をうかがうことができる。一方，珠算塾，書道塾では各地域に適切な塾が多くあることが予測できるし，それだけに新しい塾生の開発の余地が少ないであろうことも予想できよう。

g．学習塾，珠算塾，音楽教室の項目⑥と，書道塾，スポーツ教室の項目⑤は，当該塾種に通塾するようにという親からの圧力の有無を質問している。その結果，この圧力は，中都市に比べて大都市で，各塾種通して一貫して高いという特徴がみられた。塾種間の比較では，大都市，中都市ともに学習塾でこの圧力が高い（大都市26.4%，中都市19.5%）。ことに大都市では非通塾者の¼強の親が学習塾に通うように圧力をかけているという結果であった。その他の塾種では，大都市の書道塾（11.2%），同じくス

ポーツ教室（13.4%）で10%台の回答に圧力ありとするものがみられた他は，親からの圧力があるという回答が10%をこえる塾種はなく，学習塾以外は親が子どもを当該塾に通わせようとすることは少ない，いいかえれば，親の意見と子どもの非通塾という行動の一到度が比較的高いことが示されたのである。とりわけ音楽教室は親からの圧力が少ない（大都市で4.7%，中都市で3.0%）塾種であった。

h．学習塾，珠算塾，音楽教室の項目⑦と，書道塾，スポーツ教室の項目⑥は，非通塾者の当該塾への通塾願望の有無をたずねている。これによれば，通ってみたいという回答の最も多い塾種は，大都市，中都市ともにスポーツ教室であった（大都市33.5%，中都市20.0%）。大都市では，非通塾者の⅓がスポーツ教室に通ってみたいと答えているのである。ただし，このスポーツ教室でも，通いたいとは思わないという方向の回答の方が通いたいという回答よりも多く，その他の塾種でもその傾向は同様で，非通塾者が当該塾種に通いたいという願望はそれほど強いわけではない。学習塾は，通ってみたいという回答の多さがスポーツ教室についだ(大都市25.8%，中都市14.6%)。大都市では，非通塾者の¼が，親からの圧力でなく，みずから通塾してみたいと答えているのである。それにつぐのは音楽教室であった(大都市11.7%，中都市13.2%)。一方，珠算塾，書道塾はともに，みずから通ってみたいとする回答の割合が大都市，中都市でともに10%未満と低く，人気のない塾種であることが示された。ただし，すでにみたように，この両塾種は大都市でも中都市でも通塾経験者の数は多く，それがここでの結果を引きおこした大きな要因となっていることが考えられる。

i．学習塾，珠算塾，音楽教室の項目⑧と，書道塾，スポーツ教室での項目⑦では，当該塾種への魅力を直接的にたずねた。これによると，魅力の最も強い塾種は大都市，中都市ともにスポーツ教室であった（大都市32.6%，中都市21.8%）。また，音楽教室は大都市，中都市ともに10%強の回答が魅力ありとしており，スポーツ教室についだ。ただし，音楽教室は魅力を感じていないという方向の回答も他の塾種に比べて多い。学習塾，珠算塾，書道塾はすべて魅力ありという回答が10%に満たず，非通塾者に

とっては魅力にとぼしいものであることが明らかになった。ことに珠算塾は魅力ありとする者の割合が低いという結果であった。

j．態度の成分からいえば，先のhの結果は行動面，iは感情面をたずねる項目ということができる。このhとiの結果を重ね合わせると，学習塾を除いては驚くほど類似した結果がみられた。すなわち態度中の行動面と感情面の間にズレが少なかったのである。学習塾のみは，態度の行動面と感情面に一貫性が認められない。この塾種のみ態度の成分間に不均衡が認められたのである。

## 4．退塾経験者の実態と退塾理由

以下は，退塾経験者の実態と退塾理由についての調査結果を報告し，検討を加える。退塾経験者の数は，表1で示された通塾経験のある者のうち，現在通塾していて塾をかわった経験のある者と，現在は通塾していない者を合計することで求められる。したがって，大都市の学習塾については，93人，25.1%，珠算塾では191人，51.6%，書道塾は226人，61.1%，スポーツ教室は185人，50.1%，音楽教室は104人，28.1%となる。中都市の場合，学習塾は48人，14.4%，珠算塾は147人，44.3%，書道塾は140人，42.2%，スポーツ教室は71人，21.4%，音楽教室は60人，18.1%がこれに

表15　退塾時期　（%）

| | 大都市 | | | | | 中都市 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 |
| 就学前 | 0.0 | 0.0 | 26.5 | 3.8 | 4.8 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 5.0 |
| 1年生 | 0.0 | 1.0 | 8.8 | 10.8 | 21.2 | 4.2 | 2.0 | 7.9 | 5.6 | 15.0 |
| 2年生 | 6.5 | 1.6 | 18.6 | 14.6 | 17.3 | 0.0 | 0.7 | 17.1 | 18.3 | 23.3 |
| 3年生 | 23.7 | 9.9 | 23.0 | 24.3 | 16.3 | 22.9 | 12.9 | 23.6 | 18.3 | 18.3 |
| 4年生 | 30.1 | 36.1 | 30.1 | 36.8 | 21.2 | 33.3 | 28.6 | 27.9 | 29.6 | 25.0 |
| 5年生 | 41.9 | 39.3 | 15.9 | 16.8 | 16.3 | 41.7 | 39.5 | 20.7 | 29.6 | 10.0 |
| 6年生 | 18.3 | 14.7 | 9.7 | 10.3 | 9.6 | 12.5 | 21.8 | 7.1 | 9.9 | 13.3 |

該当する。

a．表15には，退塾経験者の退塾時期を学年で示した。なお，ここでは複数の退塾経験者は2つまでその時期を記入させている。この結果によれば，学習塾は大都市，中都市ともに，4年生，5年生の頃に退塾が多い。珠算塾も学習塾と同様の傾向がみられるが，大都市に比べて中都市で退塾時期がやや遅い傾向が認められる。書道塾は，3年生，4年生の頃に大都市，中都市ともに退塾者数のピークがある。また，大都市では就学前に¼が退塾経験をもつことが書道塾の特徴として示された。スポーツ教室は，大都市では3，4年生に，中都市では4，5年生に退塾のピークがある。音楽教室は，大都市で1年生と4年生，中都市で2年生と4年生と，それぞれ低学年，中学年に1つずつの退塾の山があることが示された。

表16から表20までは，各塾種ごとに退塾の理由を質問した結果を示した。質問内容は，各塾種を通して同じ番号の項目は，ほぼ同様のことがら

**表16　退塾理由（学習塾）**　　(%)

| | 大都市 | | | 大都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①先生がきらいだったり、教え方がへただったから | 29.0 | 20.4 | 50.5 | 18.8 | 39.6 | 41.7 |
| ②塾のたてものが気に入らなかったから | 10.8 | 23.7 | 65.5 | 16.7 | 18.8 | 64.6 |
| ③かようのが遠かったから | 19.4 | 12.9 | 67.7 | 10.4 | 20.8 | 68.8 |
| ④塾のお金が高かったから | 15.1 | 17.2 | 67.7 | 12.5 | 20.8 | 66.7 |
| ⑤友だちがいなかったり、いやな友だちがいたりしたから | 15.1 | 21.5 | 63.4 | 18.8 | 18.8 | 62.5 |
| ⑥塾の勉強のなかみが気に入らなかったから | 25.8 | 23.7 | 50.5 | 18.8 | 22.9 | 58.3 |
| ⑦勉強ができるようにならなかったから | 20.4 | 28.0 | 51.6 | 18.8 | 22.9 | 58.3 |
| ⑧別の学習塾へ行くことになったから | 29.0 | 9.7 | 61.3 | 12.5 | 20.8 | 66.7 |
| ⑨ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから | 16.1 | 15.1 | 68.8 | 12.5 | 25.0 | 62.5 |
| ⑩休んでいるあいだに行きにくくなったから | 7.5 | 17.2 | 75.3 | 20.8 | 20.8 | 58.3 |

表17　退塾理由（珠算塾）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①先生がきらいだったり、教え方がへただったから | 11.5 | 15.2 | 73.3 | 11.5 | 26.4 | 62.2 |
| ②塾の教室やたてものが気に入らなかったから | 7.3 | 11.5 | 81.2 | 6.1 | 27.0 | 66.9 |
| ③かようのが遠かったから | 8.4 | 10.5 | 81.2 | 15.5 | 19.6 | 64.9 |
| ④塾のお金が高かったから | 2.6 | 11.5 | 85.9 | 6.1 | 25.7 | 68.2 |
| ⑤友だちがいなかったり、いやな友だちがいたりしたから | 4.7 | 11.5 | 83.8 | 6.8 | 22.3 | 70.9 |
| ⑥そろばんがおもしろくなかったから | 18.3 | 17.8 | 63.9 | 27.7 | 27.7 | 44.6 |
| ⑦そろばんがなかなかじょうずにならなかったから | 11.5 | 13.6 | 74.9 | 14.9 | 23.6 | 61.5 |
| ⑧別のそろばん塾へ行くことになったから | 6.3 | 31.4 | 90.6 | 6.1 | 8.8 | 85.1 |
| ⑨ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから | 38.2 | 10.5 | 51.3 | 25.0 | 14.2 | 60.8 |
| ⑩休んでいるあいだに行きにくくなったから | 17.3 | 9.4 | 73.3 | 15.5 | 16.2 | 68.2 |

についてたずねたものとなっている。

b．各塾種の項目①では，塾の指導者の質の悪さや指導者を嫌いだといったことがらが退塾理由の1つになったか否かを質問した。その結果，学習塾では，大都市，中都市ともに，けいこごとの4塾種に比べて指導者の要因が退塾理由になったとする者の割合が高いことが示された（大都市で29.0%，中都市で18.8%）。けいこごとの4塾種では，指導者が原因という回答は，それが10%をこえたのは珠算塾（大都市，中都市ともに11.5%）と大都市の音楽教室であった。残りの塾種は，指導者の問題点が指摘されることは少ない結果であり，10%に満たなかった。全般に，学習塾もふくめて，指導者に問題ありとする回答は，問題ありとしなかった回答に比べて少ない結果であった。

c．各塾種の項目②は，塾の施設の悪さが退塾理由になったか否かについてのものである。ここでは，塾の施設に退塾理由があるとする回答は全

塾18　退塾理由（書道塾）　(%)

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①先生がきらいだったり、教え方がへただったから | 9.7 | 14.2 | 76.1 | 3.6 | 18.6 | 77.9 |
| ②塾の教室やたてものが気に入らなかったから | 5.3 | 13.3 | 81.4 | 3.6 | 14.3 | 82.1 |
| ③かようのが遠かったから | 15.5 | 8.4 | 76.1 | 17.9 | 12.1 | 70.0 |
| ④塾のお金が高かったから | 3.1 | 11.9 | 85.0 | 1.4 | 17.1 | 81.4 |
| ⑤友だちがいなかったり、いやな友だちがいたりしたから | 9.3 | 14.2 | 76.5 | 3.6 | 13.6 | 82.9 |
| ⑥習字がすきになれなかったから | 18.1 | 20.8 | 61.1 | 15.0 | 22.9 | 62.1 |
| ⑦なかなか字がうまくならなかったから | 15.0 | 15.0 | 69.9 | 9.3 | 20.0 | 70.7 |
| ⑧別の習字の塾へ行くことになったから | 7.1 | 8.4 | 84.5 | 2.9 | 14.3 | 82.9 |
| ⑨ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから | 39.8 | 6.6 | 53.5 | 25.0 | 8.6 | 66.4 |
| ⑩休んでいるあいだに行きにくくなったから | 15.5 | 9.3 | 75.2 | 10.7 | 9.3 | 80.0 |

般に少ない傾向がみられた。各塾種の中では学習塾が10%台（大都市10.8%，中都市16.7%）でこの理由をあげる者の割合が多かった。その他のけいこごと塾4つは，総じてこの側面の問題は少いという結果がみられ，とりわけスポーツ教室ではこの理由が少なかった。ただし，施設面が退塾理由としてあげられない場合も，それは当該塾種の施設が本当によいのか，または少々悪いががまんをしているのかは不明である。

d．各塾種の項目③では，通うのに遠いということが退塾の理由になったか否かをたずねた。遠いことを退塾理由とした回答は，大都市ではスポーツ教室が27.0%と多く，学習塾（19.4%），音楽教室（18.3%），書道塾（15.5%）が10%台でそれについだ。中都市では大都市と同様，スポーツ教室が31%とその回答が多く，音楽教室（21.7%），書道塾（17.9%），珠算塾（15.5%），学習塾（10.4%）が10%台以上の回答の割合でそれについだ。大都市の珠算塾を除き，すべての塾種で10%以上の回答がみられており，

表19　退塾理由（スポーツ教室）　（%）

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①先生がきらいだったり、教え方がへただったから | 9.7 | 13.5 | 76.8 | 7.0 | 23.9 | 69.0 |
| ②スポーツの道具やたてものが気に入らなかったから | 2.7 | 11.4 | 85.9 | 1.4 | 16.9 | 81.7 |
| ③かようのが遠かったから | 27.0 | 9.7 | 63.2 | 31.0 | 21.1 | 47.9 |
| ④お金がたくさんいりすぎたから | 4.9 | 17.3 | 77.8 | 4.2 | 23.9 | 71.8 |
| ⑤友だちがいなかったり、いやな友だちがいたりしたから | 11.9 | 13.0 | 75.1 | 7.0 | 25.4 | 67.6 |
| ⑥そのスポーツがあまりすきでなかったから | 15.1 | 14.6 | 70.3 | 16.9 | 14.1 | 69.0 |
| ⑦なかなかうまくならなかったから | 11.4 | 16.8 | 71.9 | 14.1 | 15.5 | 70.4 |
| ⑧ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから | 30.8 | 7.0 | 62.2 | 21.1 | 11.3 | 67.6 |
| ⑨別の所へスポーツを習いに行くことになったから | 6.5 | 7.6 | 85.9 | 4.2 | 12.7 | 83.1 |
| ⑩休んでいるあいだに行きにくくなったから | 9.2 | 7.6 | 83.2 | 14.1 | 16.9 | 69.0 |
| ⑪けがをしたり、病気をしたから | 8.1 | 2.7 | 89.2 | 5.6 | 11.3 | 83.1 |

遠いからやめたという理由は退塾理由の大きなものの1つとなっているように思われる。とりわけスポーツ教室では，この理由が多くあげられたのである。なお，学習塾を除いては，けいこごとの各塾種で，大都市より中都市で「はい」とする回答の割合が大きい。非通塾者に対する質問，「近くにいい（当該）塾がない」という非通塾の理由の結果（3-f）とここでの結果は類似している。中都市では，大都市に比べて地域あたりの塾数が少ないことが，この理由が多くあげられる原因となっているのであろう。地域あたりの塾の数の増加は，子どもの通塾率をさらにひきあげる条件となりうることも予想される。

e．各塾種の項目④は，費用のかかりすぎが退塾理由になったか否かをたずねたものである。子ども自身の判断によるものであるため，親の意識に比べて資料としての信頼性は乏しいきらいがある。費用面を退塾理由にあげた割合は，学習塾で大都市，中都市ともに10%台であったのを除け

表20　退塾理由（音楽教室）　(%)

| | 大都市 | | | 中都市 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | はい | どちらでもない | いいえ | はい | どちらでもない | いいえ |
| ①先生がきらいだったり、教え方がへただったから | 14.4 | 16.3 | 69.2 | 8.3 | 21.7 | 70.0 |
| ②楽器や教えてくれる場所やへやが気に入らなかったから | 4.8 | 17.3 | 77.9 | 3.3 | 13.3 | 83.3 |
| ③かようのが遠かったから | 18.3 | 12.5 | 69.2 | 21.7 | 11.7 | 66.7 |
| ④お金がたくさんいりすぎたから | 4.8 | 15.4 | 79.8 | 6.7 | 18.3 | 75.0 |
| ⑤友だちがいなかったり、いやな友だちがいたりしたから | 10.6 | 15.4 | 74.0 | 10.0 | 8.3 | 81.7 |
| ⑥その楽器を習うことがいやだったから | 12.5 | 14.4 | 73.1 | 11.7 | 26.7 | 61.7 |
| ⑦なかなかじょうずにならなかったから | 19.2 | 20.2 | 60.6 | 20.0 | 10.0 | 70.0 |
| ⑧別の所で音楽を習うことになったから | 11.5 | 5.8 | 82.7 | 10.0 | 3.3 | 86.7 |
| ⑨ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから | 17.3 | 11.5 | 71.2 | 30.0 | 11.7 | 58.3 |
| ⑩休んでいるあいだに行きにくくなったから | 7.7 | 8.7 | 83.7 | 8.3 | 15.0 | 76.7 |

ば，各けいこごと塾ではすべて10%以内と少ない結果であった。なお，月謝に関する文部省調査結果（1986）では，けいこごとに比べて学習塾の方が高い（小学校高学年で，学習塾1教科5.0千円，けいこごと1種目3.5千円，1人あたりの月謝平均は学習塾8.5千円，けいこごと5.6千円)。このことは，学習塾にみたここでの結果の重要な要因となっていると思われる。

f．各塾種の項目⑤では，友人がいないとかいやな友人がいるといった，友人関係上の問題が退塾理由となったか否かを質問した。友人問題を退塾理由としてあげた者は，学習塾では大都市15.1%，中都市18.8%と，15%をこえる割合でみられた。けいこごとの4塾種ではこれを理由とする回答は少なく，珠算塾，書道塾では大都市，中都市ともに10%以下，中都市のスポーツ教室でも同様の結果であった。10%台の割合を示す塾種も，10%を少し上回る程度であり，学習塾よりその割合は小さい。

g．各塾種の項目⑥では，当該塾での学習内容が嫌いだからやめたとい

う理由がどの程度みられるかをたずねたものである。この理由は学習塾（大都市で25.8%，中都市で18.8%）と珠算塾（大都市で18.3%，中都市では27.7%）で比較的多くみられた。また，書道塾，スポーツ教室では15%以上の回答がみられ，この2塾種でも内容が退塾理由となった者が一定数いることが示された。音楽教室は10%を少し上回る程度の割合の回答がみられた。他の塾種に比べて少ない結果である。

h．各塾種の項目⑦では，当該塾で上達しなかったことが退塾理由になっているか否かをたずねた。学習塾と音楽教室では大都市，中都市ともに20%前後の者が退塾理由に上達しなかったことをあげ，他の塾種に比べてその割合が大きいことが示された。その他の塾種では大むね10～15%程度の回答が「はい」と答えている。けいこごとの中では，音楽が，その上達に個人差が大きいのであろうか。または，個人差が大きな意味をもつようになるのであろうか。

i．スポーツ教室の項目⑨と，その他の塾種の項目⑧は，同じ塾種の他の塾にかわったという形での退塾経験があるか否かを質問したものである。大都市の学習塾では，学習塾をかわった経験をもつ者が退塾経験者の29.0%と多い。これは退塾経験のない者も加えた全体では7.3%にあたる。大都市の小学校6年生の7.3%が学習塾をかわった経験があるということになる。ここでの退塾理由をあげた者は，中都市の学習塾，大都市，中都市の音楽教室で10%を少し上回っており，その他は10%に満たない。大都市の学習塾を除いては，同じ塾種をかわるという事例は余り多くないことがうかがえる結果であった。なお，それらの塾種では被調査者全体の中での，同じ塾種をかわった者の割合も小さく，大都市の珠算塾で3.3%，書道塾で4.3%，スポーツ教室で3.3%，音楽教室で3.2%，中都市の学習塾で1.8%，珠算塾で2.7%，書道塾で1.2%，スポーツ教室で0.9%，音楽教室で1.8%であった。

j．スポーツ教室の項目⑧と，その他の塾種の項目⑨では，他の種類の塾にかわったために当該塾を退塾したという理由について質問した。この退塾理由をあげた者の割合は，けいこごと塾で多い。珠算塾，書道塾，ス

ポーツ教室は，大都市でともに30%台，中都市でともに20%台がこれを退塾理由としている。また，音楽教室は中都市では30.0%と，他のけいこごと塾と同様の結果を示している。それに対して，大都市，中都市ともに，学習塾は10%台がこの理由をあげており，大都市・音楽教室（17.3%）とともに，他の塾種に比べて割合が小さいという結果であった。全般に，学習塾は，珠算塾を除く他の塾種に比べてやや退塾の時期が遅い。また，学年の上昇とともに通塾率が上昇する塾種である。したがって，けいこごとの退塾理由となっている「他の塾種」の大きな割合を学習塾が占めていることは予想できよう。なお，被調査者全体の中で，塾種をかわることを理由にした退塾経験者の占める割合は，大都市の学習塾で4.0%，珠算塾19.7%，書道塾24.3%，スポーツ教室15.4%，音楽教室4.9%，中都市の学習塾で1.8%，珠算塾11.1%，書道塾10.6%，スポーツ教室4.5%，音楽教室5.4%であった。ここでもやはり，学習塾に比べてけいこごと塾の値が大きい。

k．各塾種での質問項目⑩では，退塾理由として，しばらく休んでいるうちに行きにくくなってしまったということがらがあげられるかどうかをたずねている。なぜしばらく休んだのかという理由も問題となるが，退塾理由としては退塾者本人にかかわることがらとして位置づけられる。この理由は，中都市の学習塾で20.8%と最も多くみられた。また，珠算塾は大都市，中都市で，書道塾は大都市で15%をこえる回答が「はい」と答えている。都市のスポーツ教室では14.1%の回答がこの退塾理由をあげている。残りの塾種では10%に満たない回答数であった。休んでいる間に行きにくくなるということは，退塾の主要な理由ではないにしろ，一定数みることができる。塾では，連続して欠席する者の欠席理由等には配慮することが必要である。

l．スポーツ教室の項目⑪では，けがをして休んだことが退塾理由となったか否かを質問した。その他の塾種にはこの質問項目はない。これは1つ前のjの退塾理由と内容的に通じるところのあるものである。結果は，大都市，中都市ともに10%に満たない回答数であった。このようにけ

がを理由とする退塾は多くはないが，事例としてはあるということも示された。

m．学習塾は，退塾理由として各項目で「はい」と答えることが多い塾種であった。項目①の指導者の要因，項目②の塾の施設面，項目④の費用面，項目⑤の友人問題，項目⑧の別の学習塾にかわったためといった理由は，大都市，中都市ともに学習塾でそれをあげる者の割合が最も大きい。塾の内容がいやだという項目⑥，勉強ができるようにならないという項目⑦では大都市で，また休んで行きにくくなったという項目⑩で，各理由を退塾理由として，他の塾種より多くあげている。学習塾では多種類の理由があげられ，退塾理由が複合的であることがうかがえよう。

n．けいこごと塾では，4塾種ともに学習塾よりはそれぞれの退塾理由をあげる割合が，全般に少なかった。別の塾種にかわったことが退塾の理由であるとする回答のみ，学習塾より一貫して多いという特徴がみられた。その他には，塾が遠いという理由がスポーツ教室では多く，塾の内容が嫌いという理由が珠算塾で，上達が遅いのでという理由が音楽教室で多いという特徴がみられた。

o．特定の退塾理由を40%以上の者があげるということは，大都市，中都市ともに，すべての塾種でみられなかった。一方，各理由に対して「いいえ」という回答の割合は，「どちらでもない」という選択肢より多く，あげられた理由を否定する場合は，それが比較的明瞭になされていることが示された。

表21には，すでにやめた塾にもう一度行く気持があるか否かをたずね

**表21**　やめた塾に再び行く気持があるか　（%）

| | 大都市 | | | | | 中都市 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 | 学習塾 | 珠算塾 | 書道塾 | スポーツ教室 | 音楽教室 |
| はい | 14.0 | 15.7 | 19.9 | 30.3 | 23.1 | 14.6 | 8.8 | 15.7 | 22.5 | 33.3 |
| どちらでもない | 30.1 | 36.6 | 31.4 | 32.4 | 34.6 | 35.4 | 36.5 | 45.7 | 35.2 | 25.0 |
| いいえ | 55.9 | 47.6 | 48.7 | 37.3 | 42.3 | 50.0 | 54.7 | 38.6 | 42.3 | 41.7 |

た結果を示した。この項目は，退塾理由が当該塾に対する否定的な感情に基づくものであったか否か，また，退塾後もその塾が誘引力をもつものであるか否かを吟味する内容となっている。

P．大都市では，学習塾と珠算塾，書道塾で，また中都市では学習塾と珠算塾で，ほぼ半数の者が当該塾に再び行く気持はないと答えている。その他の塾種では行く気持はないという回答は40%前後となっている。5つの塾種すべて，方向としては行く気持はないという方へ偏った結果が示された。行く気持はあるという回答は，学習塾，珠算塾，書道塾は大都市，中都市でともに20%に満たず，とくに中都市珠算塾は10%未満の8.8%であった。一方，スポーツ教室と音楽教室では，大都市，中都市ともに20～30%台の者が再び行ってみたいと答えており，退塾後も魅力を多く残している塾種であることをうかがわせた。

## 総　　括

今回の調査内容に即した結果の報告と若干の考察は，「結果と考察」に示したとおりである。最後に，複数の調査内容を通した検討を行ってまとめとする。

(1) 5つの塾種へは，大都市，中都市の小学校6年生の相当の割合の者が通っている。どの塾種へも，被調査者の10%以上が必ず通塾しているという結果が示されたのである。さらに，週あたり通塾日数，1回の通塾時間，週あたり通塾時間をみても，各塾が小学校6年生の子どもの学校外学習の機会として極めて重要な位置づけをもっていることが明らかに示された。被調査者の6.8%が，大都市では週あたり601分以上も学習塾にいるという結果はその最たるものであった。なお，通塾実態では，大都市と中都市の間にさまざまな差がみられた。文部省調査(1986)では人口10万人以上というカテゴリーでまとめた検討を行っているが，今回のような，10万以上の都市の場合をさらに規模別に分けるということも有益な情報を引き出すのに役立つと思われるのである。また，今回の調査では扱わなかった，

人口規模のさらに小さい地域のデータも集め検討することが必要と考えられる。（1－a，b，g～k*）

(2)小学校6年生では，個々のけいこごと塾への通塾から，学習塾へと通う塾種が移行してきており，むしろ学習塾が大きい比重を占めるようになっている。その傾向はことに大都市で大きい。（1－a，d，4－i）

(3)小学校6年生までの通塾経験を調査すると，かつて一度でも各塾種に通ったことがあるとする子どもの割合は非常に大きいものであった。学校外学習の場として，塾が大きい位置を占めていることがこのデータからも分る。とりわけ，珠算塾，書道塾は多くの子どもが一度は足をふみ入れる塾種であることが示された。近年の児童数の減少に伴い，塾経営者には経営上の危機感が強い。そしてとくに，珠算塾，書道塾は，通塾率を高めることによって危機をのりきることは期待できないほどに，通塾経験者の割合は大きいのである。したがって，経営者にとっての課題は，一旦通いはじめた子どもをどれだけ長くいつかせるかということになるだろう。安易に退塾者を出さないためには，小手先だけのご気嫌とりでは十分な効果は期待できない。何をどのように指導するのかという指導観，指導目標論，指導技術を適切に形成していくといった，本筋に沿った教育的努力が強く要求されているといえよう。（1－c，e，f）

(4)当該塾種に通うことが，「自分のためになる」とか，通うことによって「上達した」といった，塾に対するポジティヴな回答は，常に⅔以上にみられた。各塾種ともに，その効用に対しては，通塾者は高く評価していることがうかがえた。（2－a，c）

(5)当該塾種での学習内容が好きになったという回答は，珠算を除くけいこごと塾で半数をこえた。珠算は学習塾同様，その回答の割合は20～30％と多くはない。練習を通しても好きになることが少ないということ

＊このまとめでのべた内容が「結果と考察」でのどの内容に対応しているかを，以下この形で示す。1は「1. 通塾実態」の項をさす。2は「通塾者の塾に対する態度」，3は「3. 非通塾者の塾に対する意識」，4は「退塾経験者の実態と退塾理由」の項をさす。数字につづくアルファベットは，各項中のアルファベットに対応する。

が，以後の珠算塾の，他のけいこごとと比べて折々に出る結果の相違の一つのベースになっているように思われる。(2-f，g)

(5)どの塾種でも，自らすすんで通っているという回答は半数をこえ，そうではないという回答が20%をこえることはなかった。遊びの範疇にはないはずの通塾を，自主的な形で促す要因として何があるのかは，確かに吟味される必要がある。次に調査した，指導者，友人，学習内容という3側面への態度は，その一端をみるための資料となろう。(2-i)

(6)各塾種間で，指導者に最もポジティヴな態度がみられたのは，書道塾と音楽教室とであった。スポーツ教室がそれについだ。学習塾の指導者は，相対的には，子どもの間でのポジティヴな態度形成が少ない。また，中都市の珠算塾は，とりわけ指導者に対する態度で他の塾種に比べて一貫して消極的だという結果がみられた。極めて大きく捉えるならば，各塾種ともに，その指導者に対する態度はポジティヴな方向に偏る傾向がみられた。(2-k～n)

(7)塾での友人に対する態度も，各塾種を通して大きく捉えれば，ほぼポジティヴな方向に偏った傾向の結果が得られた。とりわけ，学習塾とスポーツ教室の友人はポジティヴな方向への偏りが，他の塾種に比べて大きい。また，全体的には音楽教室で，友人に対する態度が他の塾種に比べて消極的であった。(2-o～r)

(8)各塾種での学習内容に対する態度では，書道塾，スポーツ塾で，他の塾種に比べてより多くポジティヴな方向の結果がみられた。学習塾は，ほぼ一貫して，そこでの学習内容に対する態度が，相対的には消極的であった。珠算塾は，評価面ではポジティヴな傾向が強いが，好きとかもっとやりたいという側面では，積極的な方向の回答が少ないという特徴がみられた。(2-s～v)

(9)指導者，友人，指導内容の3要因に対する態度調査の結果の限りでは，通塾を促す条件は，学習塾では友人，珠算塾では指導内容が大切なことがらだという認識，書道塾では指導者と指導内容，スポーツ教室は友人と指導内容，音楽教室は指導者と指導内容が好きでもっとやりたいという気持

であると考えられる。（2－k～v）

(10)塾に通っていない子どもも，塾の必要性は認めている者が多い。とりわけ，大都市でその傾向は強い。（3－a）

(11)塾に通わない理由として，当該塾種での学習内容がきらいだという，積極的な拒否理由をあげる者は，非通塾者の中でも少数派であった。むしろ，大都市のけいこごと各塾種にみるように，他の塾に行っていて行くひまがないとか，スポーツ教室，音楽教室などのように，近くによい塾がないといった，物理的な理由をかかげる者が多い。条件さえ整えば，さらに通塾率が伸びる塾種もあることがうかがえる。（3－b，c，f）

(12) 塾に通えという親からの圧力があるという非通塾者は，学習塾ではやや多くみられるが，総じて各塾種で少ない。塾に対する親の態度と子どもの行動の間に高い一致度があると考えられる結果である。ただし，少数ながら，親からの通塾への圧力があるとする者の数が，中都市よりも大都市で大きく，大都市における塾受容性の高さをうかがわせる結果もみられた。（3－g）

(13)当該塾へ通ってみたいという願望をもつ非通塾者は全般には少数であったが，学習塾とスポーツ教室では一定の割合でそのような方向の回答もみられた。一方，当該塾に魅力を感じるかという問いに対しては，スポーツ教室で魅力ありとする者の割合が，他の塾種に比べて多かった。スポーツ教室では，それに対する魅力と，通塾への願望が対応する結果，すなわち，魅力があるから行ってみたいという図式の成立がうかがえる結果であった。しかし，学習塾の場合は，さほど魅力はないが行ってみたいという，感情面と行動面の間のくい違いがみられた。なお，小学校6年生では，珠算塾と書道塾へは通塾の願望も低く，魅力も少ないという結果が示された。（3－h～j）

(14)退塾経験者の退塾理由では，学習塾で他の塾種に比べて多い理由があげられる傾向があった。指導者，施設，月謝の全額．友人関係，指導内容，成績の向上等で退塾理由となったことがらが他の塾種より多いという結果であった。別の学習塾にかわるという，同一塾種内の移動も学習塾が最も

多い。各塾種の中では問題を多くかかえているのではないかということをうかがわせる結果であった。(4-b～k，m)

(15)珠算塾は，指導の中身，すなわち珠算自体への関心のうすさが退塾理由として一定の割合を占めている。このことは，休んでいるうちに行きにくくなったという項目をあげる者がやや多いという結果，いいかえれば，休んでしまうということがしばしばあるということとも関係がありそうである。(4-b～k，n)

(16)退塾はしたが，再びその塾に通いたい気持はあるかといった質問では，スポーツ教室，音楽教室に「はい」とする回答が多い。各塾種ごとの諸結果をあわせると，通塾の変遷は次のように描写できよう。すなわち，小学校6年生になると，そろそろ学習塾に通うことの比重が大きくなってくる。それまでに通っていたけいこごとは，学習塾に通いはじめることによって時間が少なくなり退塾する。けいこごとの中では，珠算と書道は一段落ついたという意識をもって退塾するが，スポーツ教室，音楽教室は練習内容そのものへの魅力は感じており，余裕があればもう一度通ってもいいと思うことがあるといった具合である。(4-a～o)

今回の調査では，5つの主要な塾種について，小学校6年生の児童のかかわり方を比較検討し，さまざまな特徴を見出すことができた。さらに小学校低，中学年や，中学生に対しても同様の資料の集積が必要であろう。また，実際に塾の中で子どもが何を修得し，どう適応しているのかという点について，実態を明らかにすると同時に，現状の塾指導の長短を実証的に検討することは，地域の教育力を高めていくのに必要な作業と考えられるのである。

## 文　献

深谷昌志　1985　太ども考現学　福武書店
深谷昌志・深谷和子　1976　遊びと勉強　中央公論社
文部省大臣官房調査統計課　1978　児童生徒の学校外学習活動に関する実態調査報告書（昭和51年度）　文部省
文部省大臣官房調査統計課　1986　児童・生徒の学校外学習に関する実態調査速報（昭和60年度）　文部省
ＮＮＳ調査委員会（編）　1985　こどもの生態系が変わった　日本テレビ放送網
千石保・飯長喜一郎　1985　日本の小学生―国際比較でみる―第二版　日本放送出版協会

この研究は，社団法人全国珠算教育連盟珠算数育研究所の研究費援助によって実施できたものであることを付記する。

〈資料〉調査の様式

I，学習塾

塾調査1－L

今から塾（じゅく）についていろいろとおたずねします。ありのまま思ったとおりをこたえてください。まず右下に名前を書いて下さい。

1．あなたは勉強の塾（学習塾）にかよっていますか。○でかこんでください。

（かよっている，　かよっていない）

2．「かよっている」とこたえた人は週に何日かよいますか。また1回はどれくらいの時間ですか。

週に（　　）日　　1回（　　）分

3．「かよっている」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）塾に行くことは自分のためになる　（はい，どちらでもない，いいえ）
（2）塾のおかげで勉強がよくわかるようになった　（はい，どちらでもない，いいえ）
（3）塾のおかげで勉強がすきになってきた　（はい，どちらでもない，いいえ）
（4）塾へは自分からすすんでかよっている　（はい，どちらでもない，いいえ）
（5）今の塾の先生はすきだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
（6）今の塾の友だちはすきだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
（7）今の塾の勉強のなかみはすきだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
（8）今の塾の先生は尊敬（そんけい）できる　（はい，どちらでもない，いいえ）
（9）今の塾の友だちはしっかりしている　（はい，どちらでもない，いいえ）
(10) 今の塾の勉強のなかみはよい　（はい，どちらでもない，いいえ）
(11) 今の塾の先生ともっとつきあいたい　（はい，どちらでもない，いいえ）
(12) 今の塾の友だちともっとつきあいたい　（はい，どちらでもない，いいえ）
(13) 今の塾でもっと勉強したい　（はい，どちらでもない，いいえ）

4．「かよっていない」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）学校の勉強だけでよくわかるので塾はいらない（はい，どちらでもない，いいえ）
（2）勉強はきらいだから塾へはいかない　（はい，どちらでもない，いいえ）
（3）ほかの塾やけいこごとで勉強の塾に行くひまがない
（はい，どちらでもない，いいえ）
（4）家庭教師がいるので塾は必要ない　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）近くにいい塾がない　（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）おとうさんやおかあさんは学習塾に行けといっている

（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）学習塾に行きたいと思っている　（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）学習塾はみりょくがある　（はい，どちらでもない，いいえ）

5．あなたはこれまで学習塾にかよっていて，もうやめたとか，塾をかわったということがありますか。○でかこんでください。

（ある，　ない）

6．「ある」とこたえた人はいつごろやめましたか，またはかわりましたか。何回かある人は今に近いものを2つまで書いてください。

（1）（　　）年生ごろ　（2）（　　）年生ごろ

7．「ある」とこたえた人はどんなわけでやめたり，かわったりしたのですか。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）先生がきらいだったり，教え方がへただったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）塾の教室やたてものが気に入らなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）かようのが遠かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）塾のお金が高かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）友だちがいなかったり，いやな友だちがいたりしたから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）塾の勉強のなかみが気に入らなかったから（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）勉強ができるようにならなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）別の学習塾へ行くことになったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（9）ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（10）休んでいるあいだに行きにくくなったから（はい，どちらでもない，いいえ）

8．「ある」とこたえた人は，そのやめた塾にまた行きたいきもちがありますか。○でかこんでください。

（ある，どちらでもない，ない）

（　　）年（　　）組（　　）番　なまえ（　　）

## II，珠算塾

### 塾調査 I —A

今からそろばん塾（じゅく）についていろいろとおたずねします。ありのまま思ったとおりをこたえてください。まず右下に名前を書いて下さい。

1．あなたはそろばん塾にかよっていますか。○でかこんでください。

（かよっている，　かよっていない）

2．「かよっている」とこたえた人は週に何日かよいますか。また1回はどれくらいの時間ですか。

週に（　　）日　　1回（　　）分

3．「かよっている」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）そろばん塾に行くことは自分のためになる（はい，どちらでもない，いいえ）
（2）塾のおかげでそろばんがじょうずになった（はい，どちらでもない，いいえ）
（3）塾のおかげでそろばんがすきになってきた（はい，どちらでもない，いいえ）
（4）そろばん塾へは自分からすすんでかよっている（はい，どちらでもない，いいえ）
（5）今のそろばん塾の先生はすきだ（はい，どちらでもない，いいえ）
（6）今のそろばん塾の友だちはすきだ（はい，どちらでもない，いいえ）
（7）今のそろばん塾の勉強のなかみはすきだ（はい，どちらでもない，いいえ）
（8）今のそろばん塾の先生は尊敬(そんけい)できる（はい，どちらでもない，いいえ）
（9）今のそろばん塾の友だちはしっかりしている（はい，どちらでもない，いいえ）
(10) そろばんができることはたいせつなことだ（はい，どちらでもない，いいえ）
(11) 今のそろばん塾の先生ともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）
(12) 今のそろばん塾の友だちともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）
(13) 今の塾でもっとそろばんをならいたい（はい，どちらでもない，いいえ）

4．「いいえ」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）そろばんをじょうずになろうとは思わない（はい，どちらでもない，いいえ）
（2）そろばんのようなことはきらいだからならわない
（はい，どちらでもない，いいえ）
（3）ほかの塾やけいこごとでそろばん塾に行くひまがない
（はい，どちらでもない，いいえ）
（4）そろばんは学校の勉強とかんけいないので必要ない

（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）近くにいいそろばん塾がない　（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）おとうさんやおかあさんはそろばん塾に行けといっている

（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）そろばん塾に行きたいと思っている　（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）そろばん塾はみりょくがある　（はい，どちらでもない，いいえ）

5．あなたはこれまで，そろばん塾にかよっていて，もうやめたとか，ほかのそろばん塾にかわったとかいうことがありますか。○でかこんでください。

（ある，　ない）

6．「ある」とこたえた人はいつごろやめましたか，またはかわりましたか。何回かある人は今に近いものを2つまで書いてください。

（1）（　　）年生ごろ　（2）（　　）年生ごろ

7．「ある」とこたえた人はどんなわけでやめたり，かわったりしたのですか。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）先生がきらいだったり，教え方がへただったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）塾の教室やたてものが気に入らなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）かようのが遠かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）塾のお金が高かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）友だちがいなかったり，いやな友だちがいたりしたから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）そろばんがおもしろくなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）そろばんがなかなかじょうずにならなかったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）別のそろばん塾へ行くことになったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（9）ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（10）休んでいるあいだに行きにくくなったから（はい，どちらでもない，いいえ）

8．「ある」とこたえた人は，そのやめたそろばん塾にまた行きたいきもちがありますか。○でかこんでください。

（ある，どちらでもない，ない）

（　　）年（　　）組（　　）番　なまえ（　　）

## Ⅲ　書道塾

### 塾調査Ⅰ—H

今から習字の塾（じゅく）についていろいろとおたずねします。ありのまま思ったとおりをこたえてください。まず右下に名前を書いて下さい。

1．あなたは習字の塾にかよっていますか。○でかこんでください。

（かよっている，　かよっていない）

2．「かよっている」とこたえた人は週に何日かよいますか。また1回はどれくらいの時間ですか。

週に（　　）日　　1回（　　）分

3．「かよっている」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）習字の塾に行くことは自分のためになる　（はい，どちらでもない，いいえ）
（2）習字の塾のおかげで字がうまくなった　（はい，どちらでもない，いいえ）
（3）塾のおかげで習字がすきになってきた　（はい，どちらでもない，いいえ）
（4）習字の塾へは自分からすすんでかよっている（はい，どちらでもない，いいえ）
（5）今の習字の塾の先生はすきだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
（6）今の習字の塾の友だちはすきだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
（7）習字をすることはすきだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
（8）今の習字の塾の先生は尊敬（そんけい）できる
（はい，どちらでもない，いいえ）
（9）今の習字の塾の友だちはしっかりしている（はい，どちらでもない，いいえ）
(10) 字を習うことはたいせつなことだ　（はい，どちらでもない，いいえ）
(11) 今の習字の塾の先生ともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）
(12) 今の習字の塾の友だちともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）
(13) 今の習字の塾でもっと字をならいたい　（はい，どちらでもない，いいえ）

4．「かよっていない」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）学校で習字の授業があるので塾はいらない（はい，どちらでもない，いいえ）
（2）習字はきらいだからならいにいかない　（はい，どちらでもない，いいえ）
（3）ほかの塾やけいこごとで習字の塾に行くひまがない
（はい，どちらでもない，いいえ）
（4）近くにいい習字の塾がない　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）おとうさんやおかあさんは習字の塾に行けといっている
（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）習字の塾に行きたいと思っている　（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）習字の塾はみりょくがある　（はい，どちらでもない，いいえ）

5．あなたはこれまで，習字の塾にかよっていて，もうやめたとか，ほかの習字の塾にかわったとかいうことがありますか。○でかこんでください。

（ある，　ない）

6．「ある」とこたえた人はいつごろやめましたか，またかわりましたか。何回かある人は今に近いもの2つまで書いてください。

（1）（　　）年生ごろ　（2）（　　）年生ごろ

7．「ある」とこたえた人はどんなわけでやめたり，かわったりしたのですか。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）先生がきらいだったり，教え方がへただったから
（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）塾の教室やたてものが気に入らなかったから（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）かようのが遠かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）塾のお金が高かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）友だちがいなかったり，いやな友だちがいたりしたから
（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）習字がすきになれなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）なかなか字がうまくならなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）別の習字の塾へ行くことになったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（9）ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから
（はい，どちらでもない，いいえ）

（10）休んでいるあいだに行きにくくなったから（はい，どちらでもない，いいえ）

8．「ある」とこたえた人は，そのやめた塾にまたかよいたいきもちがありますか。○でかこんでください。

（ある，どちらでもない，ない）

（　　）年（　　）組（　　）番　なまえ（　　）

## Ⅳ　スポーツ教室

### 塾調査Ⅰ—S

今からスポーツの教室についていろいろとおたずねします。ありのまま思ったとおりをこたえてください。まず右下に名前を書いて下さい。

1．あなたはスイミングスクールや剣道・空手などスポーツの教室や道場にかよっていますか。○でかこんでください。

（かよっている，　かよっていない）

2．「かよっている」とこたえた人は週に何日かよいますか。また1回はどれくらいの時間ですか。

週に（　　）日　　1回（　　）分

3．「かよっている」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）スポーツをならうことは自分のためになる（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）スポーツをならっているおかげでそのスポーツがじょうずになった（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）スポーツをならっているおかげでスポーツがすきになった（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）スポーツは自分からすすんでならいに行っている（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）今のスポーツの先生はすきだ（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）今のスポーツの教室・道場の友だちはすきだ（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）今ならっているスポーツはすきだ（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）今のスポーツの先生は尊敬(そんけい)できる（はい，どちらでもない，いいえ）

（9）今のスポーツの教室・道場の友だちはしっかりしている（はい，どちらでもない，いいえ）

(10) スポーツをならうことはたいせつなことだ（はい，どちらでもない，いいえ）

(11) 今のスポーツの先生ともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）

(12) 今のスポーツの教室・道場の友だちともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）

(13) 今のスポーツをもっとならいたい（はい，どちらでもない，いいえ）

4．「かよっていない」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）学校の体育やクラブや家での遊びがあればスポーツはならわなくてもよい

（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）スポーツはきらいだからならいにいかない（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）ほかの塾やけいこごとでスポーツをならうひまがない

（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）近くにいいスポーツ教室や道場がない　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）おとうさんやおかあさんはスポーツをならうようにいっている

（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）スポーツの教室や道場に行きたいと思っている（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）スポーツをならうことはみりょくがある　（はい，どちらでもない，いいえ）

5．あなたはこれまでスポーツの練習にかよっていて，もうやめたとか，ほかの教室や道場にかわったとかいうことがありますか。○でかこんでください。

（ある，　ない）

6．「ある」とこたえた人はいつごろやめましたか，またはかわりましたか。何回かある人は今に近いものを2つまで書いてください。

（1）（　　）年生ごろ　（2）（　　）年生ごろ

7．「ある」とこたえた人はどんなわけでやめたり，かわったりしたのですか。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）先生がきらいだったり，教え方がへただったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）スポーツの道具やたてものが気に入らなかったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）かようのが遠かったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）お金がたくさんいりすぎたから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）友だちがいなかったり，いやな友だちがいたりしたから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）そのスポーツがあまりすきでなかったから（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）なかなかうまくならなかったから　（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（9）別の所へスポーツをならいに行くことになったから

（はい，どちらでもない，いいえ）

（10）休んでいるあいだに行きにくくなったから（はい，どちらでもない，いいえ）

(11) けがをしたり，病気をしたから　　(はい，どちらでもない，いいえ)

8．「ある」とこたえた人は，そのやめたスポーツの教室や道場にまたかよいたいきもちがありますか。○でかこんでください。

(ある，どちらでもない，ない)

(　　)年(　　)組(　　)番　　なまえ(　　)

## V　音楽教室

### 塾調査 I —M

今から音楽の塾（じゅく）についていろいろとおたずねします。ありのまま思ったとおりをこたえてください。まず右下に名前を書いて下さい。

1．あなたはピアノやバイオリンのような音楽をなにかならっていますか。○でかこんでください。

(ならっている，　　ならっていない)

2．「ならっている」とこたえた人は週に何日かよいますか。また1回はどれくらいの時間ですか。

週に(　　)日　　1回(　　)分

そのおけいこの間は先生ひとりにあなたひとりでならいますか。それとも先生ひとりに何人かの友だちのグループでならいますか。

(ひとりで，　　グループで)

3．「ならっている」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

(1) おけいこに行くことは自分のためになる　(はい，どちらでもない，いいえ)

(2) おけいこのおかげで音楽が得意（とくい）になった

(はい，どちらでもない，いいえ)

(3) おけいこのおかげで音楽がすきになった　(はい，どちらでもない，いいえ)

(4) おけいこへは自分からすすんでかよっている(はい，どちらでもない，いいえ)

(5) 今のおけいこの先生はすきだ　(はい，どちらでもない，いいえ)

(6) 今のおけいこでであう友だちはすきだ　(はい，どちらでもない，いいえ)

(7) 今のおけいこでならっている音楽はすきだ(はい，どちらでもない，いいえ)

(8) 今のおけいこの先生は尊敬（そんけい）できる

（はい，どちらでもない，いいえ）

（9）今のおけいこでであう友だちはしっかりしている

（はい，どちらでもない，いいえ）

(10) 今おけいこしている音楽はすばらしい　（はい，どちらでもない，いいえ）

(11) 今のおけいこの先生ともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）

(12) 今のおけいこの友だちともっとつきあいたい（はい，どちらでもない，いいえ）

(13) 今のおけいこをもっとならいたい　（はい，どちらでもない，いいえ）

4．「ならっていない」とこたえた人が次のしつもんにこたえてください。「はい」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

（1）音楽は学校でやったり，テレビ，ラジオできくからおけいこしなくてよい

（はい，どちらでもない，いいえ）

（2）音楽はきらいだから（おけいこ）には行かない

（はい，どちらでもない，いいえ）

（3）ほかの塾やけいこごとで音楽の（おけいこ）に行くひまがない

（はい，どちらでもない，いいえ）

（4）音楽を教えにきてもらっているのででかける必要がない

（はい，どちらでもない，いいえ）

（5）近くにいい先生がいない，いい音楽教室がない

（はい，どちらでもない，いいえ）

（6）おとうさんやおかあさんは音楽の（おけいこ）に行けといっている

（はい，どちらでもない，いいえ）

（7）音楽のおけいこごとに行きたいと思っている

（はい，どちらでもない，いいえ）

（8）音楽のおけいこごとはみりょくがある　（はい，どちらでもない，いいえ）

5．あなたはこれまで，音楽の（おけいこ）ごとにかよっていて，もうやめたとか，ほかの音楽の教室やほかの先生にかわったことがありますか。○でかこんでください。

（ある，　　ない）

6．「ある」とこたえた人はいつごろやめましたか，またはかわりましたか。何回かある人は今に近いものを2つまで書いてください。

（1）（　　）年生ごろ　（2）（　　）年生ごろ

7．「ある」とこたえた人はどんなわけでやめたり，かわったりしたのですか。「は

い」，「どちらでもない」，「いいえ」のどれかをかならず○でかこんでください。

(1) 先生がきらいだったり，教え方がへただったから
(はい，どちらでもない，いいえ)

(2) 楽器や教えてくれる場所やへやが気に入らなかったから
(はい，どちらでもない，いいえ)

(3) かようのが遠かったから　(はい，どちらでもない，いいえ)

(4) お金がたくさんいりすぎたから　(はい，どちらでもない，いいえ)

(5) 友だちがいなかったり，いやな友だちがいたりしたから
(はい，どちらでもない，いいえ)

(6) その楽器をならうことがいやだったから　(はい，どちらでもない，いいえ)

(7) なかなかじょうずにならなかったから　(はい，どちらでもない，いいえ)

(8) 別の所で音楽をならうことになったから　(はい，どちらでもない，いいえ)

(9) ほかの種類の塾やおけいこごとに行くことになったから
(はい，どちらでもない，いいえ)

(10) 休んでいるあいだに行きにくくなったから (はい，どちらでもない，いいえ)

8. 「ある」とこたえた人は，そのやめた音楽のおけいこの教室や先生にまたならいたいきもちがありますか。○でかこんでください。

(ある，どちらでもない，ない)

(　　)年(　　)組(　　)番　なまえ(　　)